USER'S GUIDE

WinBook

J2SX/33 486Notebook Computer

WinBook 2

J2DX2/50 486Notebook Computer

WinBook 3

J2DX4/100 486Notebook Computer

SOTEC

WinBook

*WinBook*2

*WinBook*3

ノートブック　コンピュータ

ユーザーズガイド

株式会社ソーテック
日付１９９４年9月８日

目 次

目 次

目 次

目 次

目次

重要なお知らせ

このユーザーズガイドに含まれる情報は事前にお知らせすることなしに変更される場合があります。
本製品ならびにソフトウエアおよびマニュアルを運用した結果の影響についてはいっさい責任を負いかねますのでご了承ください。
本製品およびソフトウエアの仕様は予告なしに変更することがあります。

版権についてのお知らせ

本ガイドにおいて説明されている各ソフトウエアはライセンスあるいはロイヤリティ契約のもとに供給されています。ソフトウエアおよびそのマニュアルは、そのソフトウエアライセンス契約にもとづき同意書記載の管理責任者の管理のもとでのみ使用することができます。それ以外の場合は当該ソフトウエア供給会社の承諾なしに無断で使用することはできません。

Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ®ＭＳ－ＤＯＳ®Ｖｅｒｓｉｏｎ６．２／Ｖ，５．０／Ｖは、米国マイクロソフト社の登録商標です。以下ＭＳ－ＤＯＳと省略します。
Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ®Ｗｉｎｄｏｗｓ™ Ｖｅｒｓｉｏｎ３．１は、米国マイクロソフト社の登録商標です。以下Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ Ｗｉｎｄｏｗｓ又はＷｉｎｄｏｗｓと省略します。
ＳｙｓｔｅｍＳｏｆｔは米国システムソフト社の登録商標です。
Ｍａｘｉｉｍｉｚｅｒ、Ａｎｙ Ｋｅｙ Ｒｅｓｕｍｅ、ＣＡＲＤＳＯＦＴは、米国システムソフト社の登録商標です。
ＰＳ／２は米国ＩＢＭ社の登録商標です。
ＰＣＭＣＩＡは米国ＰＣＭＣＩＡ社の商標です。
ＳＬエンハンストｉ４８６ＳＸ、ＤＸ２、ＤＸ４は米国インテル社の登録商標です。以下４８６ＳＸ、ＤＸ２、ＤＸ４と省略します。

はじめる前に

ソーテック***WinBook***コンピュータをお買い上げいただきまことにありがとうございました。　ソーテック***WinBook***コンピュータはデスクトップコンピュータに匹敵する機能をＡ４サイズのなかに凝縮したコンパクトで多機能なノートブックコンピュータです。

このガイドはソーテック***WinBook***コンピュータをどのように使い、維持するかについて説明しています。コンピュータをご使用になる前にどうぞ最初のセクションを注意深くお読みください。　このセクションの終りにはこのガイドの残りの部分でカバーしている各項目についてあなたの経験の度合に応じてどのように進めばよいかを説明しています。

このセクションでは．．．．

- ***WinBook***の標準機能
- ***WinBook***システムに含まれているもの
- 取り扱い上の注意
- さあ、はじめましょう
- ガイドの使い方
- 困った時には

*WinBook*の標準機能

- ４８６ＳＸまたはＤＸ２またはＤＸ４マイクロプロセッサ搭載
- 内蔵ＲＡＭは標準８ＭＢ
- ６４階調の９．４インチ白黒ＬＣＤ、２５６色ＤＳＴＮ９．４インチカラーＬＣＤ、２５６色ＴＦＴカラーＬＣＤ、２５６色ＤＳＴＮ１０．３インチカラーＬＣＤの４種類
- ＬＥＤによる各種動作モード表示
- マルチ周波数モニタなどを接続時に、より高解像度のＷｉｎｄｏｗｓ表示がＣＲＴ上に可能
- ３．５インチ３モード内蔵フロッピーディスクドライブ
- リトラクタブルマイクロトラックボール
- ＡＣアダプタ、ＡＣケーブル
- 取り外し可能な２６０ＭＢ又は３４０ＭＢハードディスクドライブ
- ２枚まで装着可能な拡張ＲＡＭモジュール
- ２枚まで装着可能なＩＣカード用スロット

*WinBook*に含まれるもの

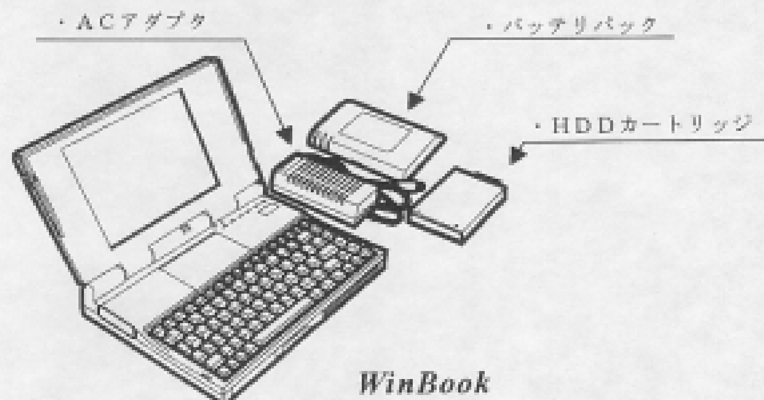
■ハードウエア

*WinBook*ノートブックコンピュータを構成するために以下のようなハードウエアとアクセサリが含まれています。

- *WinBook*コンピュータ本体
- 取り外し可能なハードディスクユニット（本体に装着されています。）
- 取り外し可能なバッテリパック（本体に装着されています。）

> 注意
> バッテリパックは出荷時に絶縁紙をはさんで、本体に装着されています。チャプタ４のバッテリパックの着脱の項目をお読みのうえ、バッテリパックを取り外して絶縁紙を取り去り、再び装着してください。

- ＡＣアダプタ電源とＡＣコード
- 保証書
- ユーザ登録カード
- テックサポートＦＡＸシート



WinBook

チャプタ１ではこれらの品々の簡単な使い方について説明しています。　チャプタ２、３そして４にすすめばさらに詳しいコンピュータの各部についての説明を知ることができます。

■ソフトウエア

下記３種類のユーティリティとＯＳが添付又はＨＤＤへインストールされています。

- リファレンスディスク

  ＩＣカードを使用するため、又ＬＣＤの表示を見易くするためや、ＣＲＴの高解像度表示をサポートするための小さなユーティリティが用意されています。　Ｗｉｎｄｏｗｓインストールバージョンではこれらはすでにハードディスクにインストールされています。使用方法はＡＰＰＥＮＤＩＸ　Ｂに記述してあります。

- ＭＳ－ＤＯＳ、オペレーティングシステム（ＨＤＤインストール済）

  このプログラムにより、基本的なコンピュータの操作つまり、情報をディスクに書いたり新しいディスクを使用出来るよう準備することなどを行うことができます。　ＭＳ－ＤＯＳはまたあなたが購入するであろう他のプログラムを実行させる機能を持ちます。　その他のオペレーティングシステムをコンピュータに組み込まない限り、コンピュータをスタートさせる度にいつもＭＳ－ＤＯＳを使用することになります。

- マイクロソフトＷｉｎｄｏｗｓ（ＨＤＤインストール済）

  グラフィカル・ユーザインターフェース。これはＤＯＳのもとで動作し、各種の用途に使用されます。　マイクロソフトＷｉｎｄｏｗｓ（以下Ｗｉｎｄｏｗｓと略します）により、アプリケーションの操作や、起動が簡単になり、同時にいくつかのアプリケーションを走らせることが出来るとともにディスク上のファイルの構成を管理することができます。

■書類関連

添付されているガイドにはソーテック***WinBook***コンピュータをスタートさせ、基本的な使い方を知るために必要な情報が含まれています。

- ***WinBook***ユーザーズガイド（このガイドです。）

  このコンピュータの起動方法、手入れ、おもな部品やユーティリティについて説明しています。またオペレーティングシステムの主な使い方についても説明しています。

- ＭＳ－ＤＯＳユーザーズガイド

  ＭＳ－ＤＯＳの初歩的操作、コマンド、環境について説明しています。（おもなＤＯＳの機能についてはこのセクションの終りに説明しています。）

- マイクロソフトＷｉｎｄｏｗｓユーザーズガイド

  基礎から高度な使い方について説明しています。Ｗｉｎｄｏｗｓのアプリケーションを使う前に、このガイドの基礎の項目を読まれることは大変よいことといえます。なぜならＷｉｎｄｏｗｓに対する操作はＷｉｎｄｏｗｓのアプリケーションの操作にも多くの共通点が存在するからです。（このセクションの終りにＷｉｎｄｏｗｓの主な機能について説明しています。）

■取り扱い上の注意

WinBookシステムは高品質の材料から組み立てられています。　しかしながら、大きなシステムにくらべて小型軽量のこのシステムはよく持ち運ばれて使用されることと思います。　この点からみてあなたのデータが失われたりシステムがダメージを受けたりしないよう、以下に説明する各項目についてとくに注意を払ってください。

- コンピュータを落下させないでください。また重いものをコンピュータの上にのせないでください。
- どうしても必要であるとき以外は、コンピュータの動作中、特にハードディスクやフロッピーディスクが動作中にはコンピュータを移動させないでください。また電源オフ直後１０秒程度も移動させないでください。（ハードディスクが完全停止するまで）
- ＡＣアダプタを使用しているとき、電源が１００－２４０Ｖの範囲であることをおたしかめください。　このことは海外に持ち運んで使用したときに特に重要な項目です。電源電圧がこの範囲を越えている場合にはけっしてＡＣアダプタを差し込まないでください。
- コネクタ類をつけたり、はずしたりするときにはその前にコンピュータの電源をオフしてください。
- 直射日光の当たるところで長時間コンピュータを使用しないでください。高湿度の場所（２０－８０％の相対湿度）やほこりの多い場所または濡れた手でコンピュータを使用しないでください。
- 研磨材の入ったものや目の荒い布などで、ディスプレイの表面を拭かないでください。
- 振動を発生するもの、磁界を発生するもの、有機溶剤、腐蝕性のガスの近くにコンピュータをおかないでください。　保管出来る温度の範囲は－１０度から６０度までです。
- ＡＣアダプタはソーテック***WinBook***コンピュータ以外には使用しないでください。
- ＡＣアダプタのケースは分解しないでください。このＡＣアダプタは破損したり、故障したときに修理するため分解することはできません。
- ＡＣアダプタのコードを持ってひっぱらないでください。ＡＣアダプタを着脱するときにはケーブルのプラグを持って行ってください。
- ＡＣアダプタを温度、湿度の大きく異なるところにさらさないでください。
- ＡＣアダプタをほこりや水気のあるところにおかないでください。また腐蝕性ガスのあるところつまり、有機溶剤などのあるところにおかないでください。
- ＡＣアダプタを熱の発生する物のそばにおかないでください。また直射日光のあたる場所に放置しないでください。
- ＡＣアダプタをなげたり、落としたりしないでください。また上に何ものせないでください。
- もし、ＡＣアダプタから何かこげるような臭いがしたり、ＡＣアダプタの表面が大変熱いときには直ちにＡＣコードを抜いてください。

ＬＣＤ（液晶ディスプレイ）の表面についたごみを取り除く場合にはやわらかい布を使って、注意深く拭いてください。　最寄りのコンピュータショップには画面を拭くために専用に作られた布が販売されていますので、これを利用することもできます。

フロッピーディスクを掃除する場合には市販されている、３．５インチタイプの湿式のクリーニングディスクをお求めのうえ行ってください。

以下のソーテックの部品は定期的に交換していただく必要があります。

- 充電式バッテリパック。　充電を行うことができなくなったときに交換します。（チャプタ４に詳しい説明があります。）
- リチウムバッテリ。　このバッテリは内部の時計、カレンダに電源を供給しています。　コンピュータの電源をオフさせたあと、ＣＭＯＳバッテリエラーが次の電源オン時に表示されるようになったら、お求めの代理店に電池を交換するようご指示ください。

警告

専用のバッテリパック以外のものをコンピュータを動作させるために使用すると電池が破裂するなどの危険があります。　ソーテックの保証する***WinBook***専用バッテリパックをお求めの上交換してください。

Caution:

There is a danger of explosion if you insert a battery other than the battery intended for use with this computer. Replace only with an ***WinBook*** battery authorized by SOTEC

さあ、はじめましょう

WinBookに付属してくる各ガイドにはコンピュータをセットアップし、操作するために必要なすべての情報が含まれています。　このガイドのチャプタ１では***WinBook***を初めて使用する場合にどのようにしたらよいかを以下の各ステップにて説明しています。

1 システムを構成する各部に慣れる

チャプタ１は、コンピュータの各部がどのように操作されるべきかを知る必要のある概要を含んでいます。

2 バッテリパックをコンピュータに組み込む

WinBookコンピュータはＡＣ電源またはバッテリ電源のいずれでも動作させることができます。製品出荷のとき、バッテリパックは充電された状態ではありません。　充電するには一度装着されているバッテリパックを取り外し、本体とバッテリパックの端子のあいだに挟まれている絶縁紙を取り除いてから再びバッテリパックを装着してください。

充電はＡＣアダプタが接続され、コンピュータが使用していない状態で、約２時間で完了します。　電池の装着方法はチャプタ１の各部の概要の後に説明されています。

3 システムの時刻と日付を設定する

チャプタ１の終りにシステムの時間と日付を設定する方法を説明しています。

これらのステップをへて、アプリケーションソフトウエアをシステムへインストールする準備が整います。

以下の表は始めるときにどこに説明があるかを知るための手掛かりとなります。　あなたが経験のあるユーザの場合でも、Ｘマークのついている項目（経験者向け）は確認していただけるようお願い致します。

作業項目	説明の場所	経験者のかたは
基本的なシステムの構成部品の概要	チャプタ１	
バッテリパックの装着	チャプタ１	X
コンピュータの起動とセットアップ	チャプタ１	X
データ格納メディアの取り扱い	チャプタ２	
キーボードを使う	チャプタ３	X
バッテリを使う	チャプタ４	X
追加オプションを装着する	チャプタ６	X

本ガイドに出てくる単語の字体の意味

diskcopy	この字体で書かれている文字は示されているとおりにキーボードからタイプされなければなりません。　特に指示がなければ大文字、小文字の区別はありせん。　どちらでも使用することができます。
System Configuration	この字体で書かれた文字はコンピュータの画面に表示されているものであることを示します。
＜＞	この括弧でくくられた文字列はその文字の示すようなキー操作を示します。　たとえば＜Ｅｎｔｅｒ＞は”Ｅｎｔｅｒ”と印字されたキーを押すことを示します。
＜Ｃｔｒｌ＞＋＜Ｃ＞	キーボードのキーはこの字体で記述されています。 複数のキーを組み合わせて押す時には+でつなげています。　この例では”Ｃｔｒｌと印字されたキーとＣと印字されたキーを同時に押す”ことを意味しています。

システムソフトウエア

WinBookシステムのＭＳ－ＤＯＳ、Ｗｉｎｄｏｗｓのどちらも詳細に説明されたマニュアルが別に添付されています。ここではこれらのソフトウエアについて簡単な理解を得られるような概要を説明しています。

■ＭＳ－ＤＯＳ

ＭＳ－ＤＯＳ（またはＭｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｄｉｓｋ　Ｏｐｅｒａｔｉｎｇ　Ｓｙｓｔｅｍ、一般的にＤＯＳと呼ばれています。）はコンピュータの電源をオンさせる度に通常スタートさせるプログラムです。このオペレーティングシステムはその外のすべてのプログラム（Ｗｉｎｄｏｗｓを含みます。）のためにコンピュータと直結した基本的な機能を管理するものです。

もしあるアプリケーションがあるデータをハードディスクもしくはフロッピーディスクから読み込む必要がでた場合、また画面に文字（テキスト）やグラフィックを表示したいとき、ＭＳ－ＤＯＳがその目的に使用されます。

また、ＭＳ－ＤＯＳを直接使用することもできます。数十種のコマンドを”ＤＯＳプロンプト”（一般的にＣ：＞）においてあなたはタイプすることができます。ほとんどのコマンドはハードディスクあるいはフロッピーディスクに対してなにかを行う命令です。以下のようなことができます。

- ディスクの内容を表示させる。
- ディスクのファイルを管理する。（コピー、消去、名前変更）
- システムのメモリを管理する。

もし、Ｗｉｎｄｏｗｓのアプリケーションのみを使用するなら、あなたがＤＯＳのコマンドを直接触る機会は大変少ないでしょう。ＤＯＳのアプリケーションを使用する場合でもそれらのアプリケーションをスタートさせること以外にＤＯＳコマンドをタイプすることは少ないでしょう。またアプリケーションのなかで、それら自身があなたのデータを保存したり、コピーしたりするのに使われることがあります。

さらに詳しいことを知りたい場合にはＭＳ－ＤＯＳのマニュアルをご覧ください。

■Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｗｉｎｄｏｗｓ

ＷｉｎｄｏｗｓはＤＯＳのもとで動作します。これは一般的なアプリケーションプログラムではなく、オペレーティングエンバイロメント（操作環境）といわれるものになります。　Ｗｉｎｄｏｗｓの目的はアプリケーションを使うのをより簡単にすることにあります。またＤＯＳにはないいくつかの機能を提供します。

Ｗｉｎｄｏｗｓにおいてコンピュータの画面は”デスクトップ（机の上）”と呼ばれます。Ｗｉｎｄｏｗｓの名前はデスクトップ上で使用されるファイルやプログラムを含む、四角い額縁または窓（ウインドウ）から由来しています。

それぞれのプログラムや、ファイルはデスクトップ上に”アイコン”と呼ばれるもので表現されます。マウスを使って各種の操作をアイコンに対して行うことができます。（Ｗｉｎｄｏｗｓではマウスの代わりにキーボードによる操作を行うこともできますが、その効率や、操作感はよい

ものではありません。Ｗｉｎｄｏｗｓを使いこなすにはマウスか、トラックボールがぜひ必要です。）たとえば、アプリケーションのアイコンにマウスのポインタ（矢印）を移動させ、マウスボタンを２回押す（ダブル・クリック）ことは、そのアプリケーションをスタートさせることを意味します。

あなたは同時に１つ以上のアプリケーションをそれぞれのウィンドウにおいて実行させることができます。最初はそれぞれのアプリケーションウインドウは画面（つまりデスクトップ）いっぱいに広がっています。一番上にのっているものだけが見ることができます。しかし、あなたはこれらを小さくしたり、整列させたりすることができます。いちどきに１つのウインドウをアクティブにすることができます。しかしその他へも単純にクリックさせることでうつることができます。

ファイルも他のアプリケーションの如くそれ自身のウインドウにてオープンさせることができます。

その他のＷｉｎｄｏｗｓの特徴として、すべてのアプリケーションの基本的操作方法はすべて共通していることがあげられます。　このことは１つのアプリケーションについてどのように作業するか習得すればその他にもまた適用することが出来るということを意味しています。おなじ理由で、Ｗｉｎｄｏｗｓのアプリケーションを走らせるまえにＷｉｎｄｏｗｓの基本を習得しておくことがもっとも良いことであるといえます。

Ｗｉｎｄｏｗｓのさらに詳しい内容を知りたい場合は、ゾーテック***WinBook***パッケージに付属するマニュアルを参照してください。

困った時には

このガイドを参照しても、ソーテック**WinBook**コンピュータに関する問題が解決しない場合には以下のテクニカルサポートセンタにお問い合わせください。

電話番号：０４５－６６１－７３５８

株式会社ソーテック　テクニカルサポートセンタ

毎週 月曜日から金曜日の午前１０時から午後４時まで（祝祭日をのぞきます。）

この番号にかける前に以下の項目を準備されているか確認してください。

- どの代理店から購入されましたか？
- コンピュータのシリアル番号（製造番号）これはコンピュータの底面に貼りつけてある、ラベルに印刷してあります。
- 問題の出来るだけ詳しい内容
- コンピュータそのもの

その他の方法として、その問題の説明をこの製品に付属するテクニカルサポートＦＡＸシート記入用紙に記入いただき、以下の番号あてＦＡＸで送付いただく方法もあります。

ＦＡＸ番号：０４５－６６２－０６５６

株式会社ソーテック テクニカルサポートセンタ

また書面の郵送または物品の送付の宛て先は以下のところへお願いいたします。

なお、ご発送の際には必ず購入時と同じ梱包（梱包箱、パッキン）にてご返送願います。

郵便番号 ２３１
神奈川県横浜市中区太田町４－５５
横浜馬車道ビル

株式会社ソーテック テクニカルサポートセンタ

注意
ＨＤＤを修理する場合はドライブのみの修理若しくは交換となります。記憶されているアプリケーション、データ等の保証、修復はいたしかねますので重要なものについては必ずコピーをとるようお願いいたします。

チャプタ 1　第一段階

このチャプタでは

- コンピュータの開け閉め
- 部品の概要、電源とマイクロプロセッサシステム
- マイクロトラックボールの出し入れ
- マイクロトラックボールのクリーニング
- コンピュータの起動
- 日付、時刻の設定
- コンピュータのリセット
- コンピュータのオフ

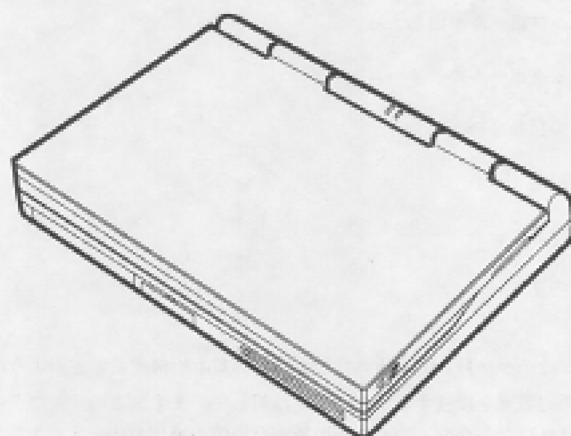
このチャプタはソーテック***WinBook***コンピュータの基本的構成品とどのようにプリンタや外部モニタのような周辺装置を接続するかについて説明しています。このチャプタの最後ではまず最初に必ず行わなければならない、いくつかの特別な段階の操作方法を含めたコンピュータのスタート方法について説明しています。

もし、その他のコンピュータを使ったことがある場合はたぶんこのチャプタのいくつかの項目は飛ばしたくなるでしょう。しかし、システムの構成品、起動、システムコンフィグレーションの方法については一度目を通しておいてください。

コンピュータの開け閉め

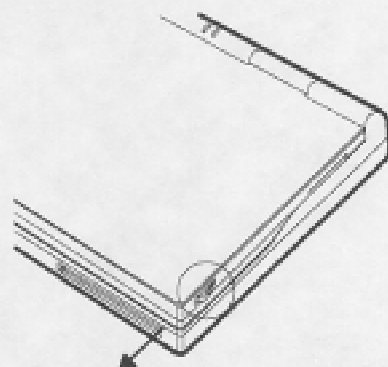
もし以前の項目で説明した注意点をお読みになっていない場合はこの先に進む前にどうぞ注意点をお読みになってください。

コンピュータを開けるには以下の絵のようにコンピュータをおいてください。

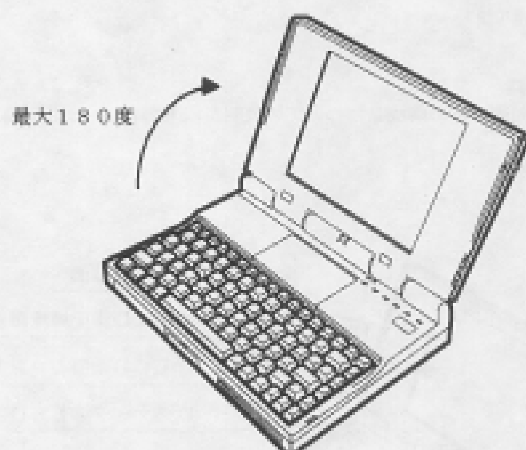


ここにはコンピュータの両脇にスライド装置がそれぞれ１つずつあります。

1　コンピュータの前に向かって両方のスライド装置（イラストに示すように）をスライドさせます。



2　カバーをＬＣＤ画面の見やすい角度まで開きます。ＡＣアダプタが接続されていなければ１８０度まで開けることができます。

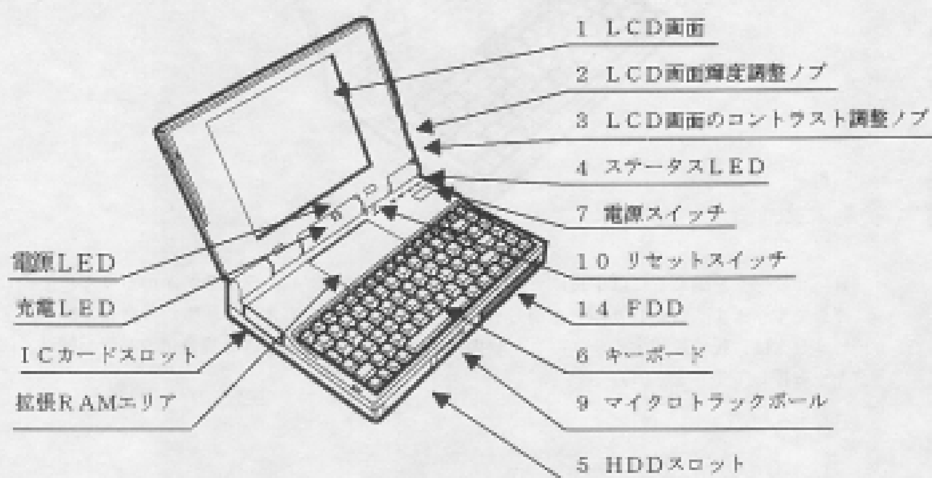


コンピュータを閉じるには単純にカバーをもとの位置にもどし、ラッチがかかるまで、やさしく押してやります。（もしカバーを閉じるときにコンピュータがオンの状態だったときはコンピュータは、後で説明するサスペンド状態に入ります。作業を続ける場合はカバーを開け、何かキーを押してやります。）

WinBook各部の外観説明

コンピュータの制御やその構成品についての説明が以下の各ページに記されています。

■左前から



各LEDにはシンボルマークが刻印されています。各シンボルマークは以下の表のような対応となっています。それぞれのLEDの意味はこのあと説明されています。

注意
外観図は白黒LCDモデル、DSTNカラーLCDモデルのものです。
J2SX／33CXi（TFTカラーLCD）モデルには＜LCD画面の画面のコントラスト調整ノブ＞がありません。

	充電状態
	電源状態
	HDD状態
	FDD状態
	CPU状態

1	NUMロック状態
A	CAPSロック状態
↓	SCRLロック状態

1　LCD画面

LCD画面には***WinBook***のモデルによってカラーと白黒のものがあります。LCD画面はLCDの背後にある照明により照らされ、コンピュータの使用中は通常点灯しています。電池の使用時間を引き伸ばすために指定した数分のあいだコンピュータが使用状態にないとき、自動的に照明装置を切ることができます。何かキーを押せばもとの使用出来る状態に戻ります。（チャプタ5の" システムコンフィグレーション" の項目を併せてお読みください。）

2　LCD画面の輝度調整ノブ

LCD画面の明るさを調整するために使用します。見やすい明るさに調整してください。ただし、明るくすればするほど電池を消耗します。

> 注意
> J2SX／33CX（TFTカラーモデル）のLCD画面輝度
> 上記モデルはLCD輝度調整ノブにてLCD画面の輝度を調整できますが調整範囲をそれ程広くとっていないため、十分明るい環境では変化をあまり感じられない場合があります。このケースでは消費電力を押さえるため、輝度を最低にしておく事をお奨め致します。

> 注意
> J2SX／33CX（TFTカラーモデル）のLCD画面にて小さな点が消えないものがありますが、これは故障ではありません。

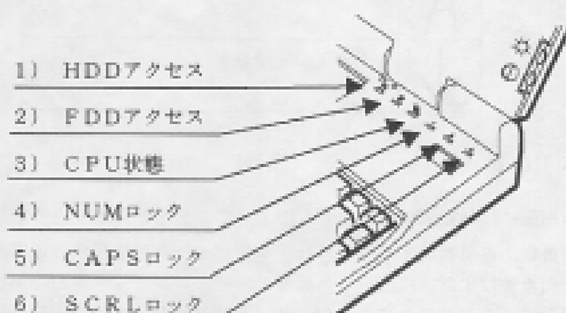
> 注意
> J2SX／33C（DSTNカラーモデル）のLCD画面輝度
> 上記モデルはバッテリ動作中は輝度が最低に設定されますのでLCD画面の輝度調整ノブでのコントロールはできません。

3　LCD画面のコントラスト調整ノブ（J2SX／33CXiは付いていません。）

LCDのコントラストを調整するために使用します。見やすいコントラストに調整してください。

4　ステータスＬＥＤ

ここに並ぶ数個のＬＥＤ（発光ダイオード）は***WinBook***の動作状態を示すために設けられています。



1) ＨＤＤアクセス

ＨＤＤの使用中にこのＬＥＤが点灯します。

警告
このＬＥＤが点灯中にコンピュータの電源をオフにしてはいけません。

2) ＦＤＤアクセス

ＦＤＤの使用中にこのＬＥＤが点灯します。

3) ＣＰＵ状態表示

ＣＰＵのスピードに応じてＬＥＤの色が変化します。緑色に点灯しているとＣＰＵは通常のスピードで動作しています。パワーセーブ機能あるいはＣＰＵスピードをＬＯＷスピード（Ｊ２ＳＸ／３３は８．２５ＭＨｚ、Ｊ２ＤＸ２／５０Ｃｉは２５ＭＨｚ、Ｊ２ＤＸ４／１００Ｃｉは５０ＭＨｚ）に設定すると、オレンジ色に点灯します。

4) ＮＵＭロック

ＮＵＭロック状態にあると、このＬＥＤが点灯します。エンベデッドキーパッド部分がこの状態で、使えるようになります。（チャプタ３も併せてお読みください。）

5) ＣＡＰＳロック

ＣＡＰＳロック状態にあることを示します。このとき、アルファベットキーはシフトキーを押さずに大文字を入力することができます。

6) ＳＣＲＬロック

ＳＣＲＬロック状態にあることを示します。このモードにおける使い方はアプリケーションプログラムによって異なります。

5　ＨＤＤスロット

ＨＤＤカートリッジがここに収納されます。後述する、ＨＤＤカートリッジ取り出しボタンを押すことにより、ＨＤＤカートリッジを前に引き出して、取り外すことができます。

警告
コンピュータがオンになっている間はHDDカートリッジを取り外さないでください。

6 キーボード

キーボードに関してはチャプタ３にある説明をお読みください。

7 電源スイッチ

このボタンを押すことで、コンピュータの電源をオンオフさせることができます。

警告
HDD（ハードディスク）や（FDD）フロッピーディスクを使用中に電源をオフにしたり、コンピュータを動かしたりしないでください。電源をオフにした後、再び電源を投入する場合は１５秒以上まってください。

8 拡張RAMエリア

このカバーを持ち上げることにより，拡張RAMモジュールを装着あるいは取り外すことができます。詳しいその方法についてはチャプタ６の説明をお読みください。

9 マイクロトラックボール

マイクロトラックボール（以下MTBと省略します。）はマウス装置の代わりにプログラムの中で使用することができます。使用するときには前に引き出してください。詳しい使い方についてはこのチャプタの後半をお読みください。

10 リセットスイッチ

システムをリセットする場合にこのチャプタの後半で説明しているようにこのボタンを押します。この動作により，あなたが使用しているすべてのどんなプログラムもデータをセーブすることなしに終了し，システムはDOSを再ブートします。一般的にシステムが”ハング（凍結してしまう）”状態のときか、キーボードからの入力に対して反応しなくなってしまったときにのみ使用します。

11 電源LED

コンピュータの電源がバッテリのみで使用時にオン状態にあると，緑色に点灯します。バッテリ使用時にバッテリパックの残量が少なくなると、オレンジ色に点灯変化します。ACアダプタ入力が接続されている場合，黄色に点灯します。システムがサスペンド状態にあるとLEDはその時の電源条件の色にて点滅します。

12 充電LED

このLEDは現在の電池の充電の状態について表示を行います。

電池が充電中はオレンジ色に点滅します。

電池が満充電になると、オレンジ色に点灯します。

充電中になんらかの異常が発生してそれ以上充電が継続できなくなった場合は消灯します。また電池のみでACアダプタから給電されていないときも消灯しています。

13 ＩＣカードスロット

このＩＣカードスロットにＰＣＭＣＩＡ規格準拠のＩＣカードを装着して使用することができます。ＰＣＭＣＩＡカードを使用するときにはソケットサービス、カードサービスを始めとするプログラムをインストールする必要があります。詳しくはチャプタ６の説明をお読みください。

14 ＦＤＤ

ここから３．５インチフロッピーディスクを挿入します。フロッピーディスクを抜くときにはＦＤＤの左側にあるボタンを押してください。

> **警告**
> ＦＤＤ使用中ＬＥＤが点灯している間はディスクを取り出さないでください。

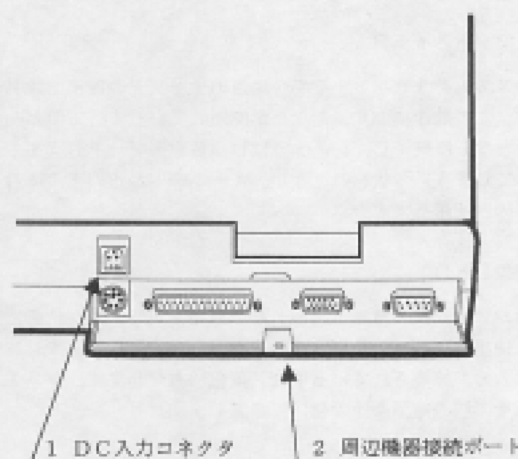
■後ろ右から

1　ＤＣ入力コネクタ

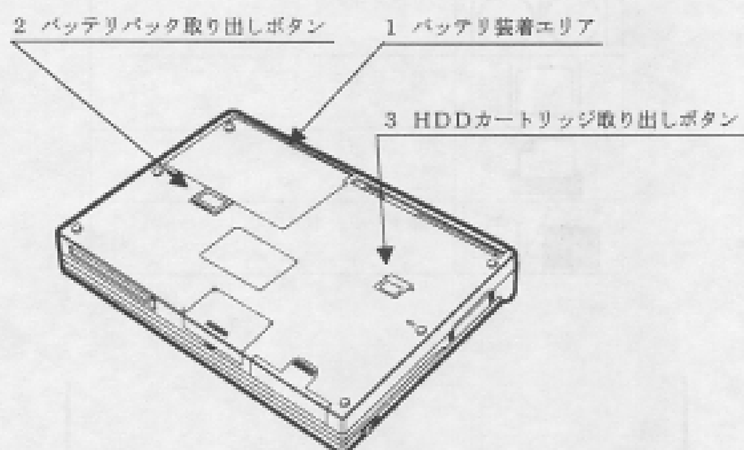
ＡＣアダプタをここへ接続します。

2　周辺機器接続ポート

周辺機器を接続する各ポートがこのふたの中にあります。ノブを下げながら、ふたを開けてください。



■底面から



1 バッテリ装着エリア

このエリアにバッテリパックを装着します。

2 バッテリパック取り出しボタン

バッテリパックを取り出すときにこのボタンを押します。

警告
コンピュータの動作中にバッテリパックを取り出さないでください。

3 HDDカートリッジ取り出しボタン

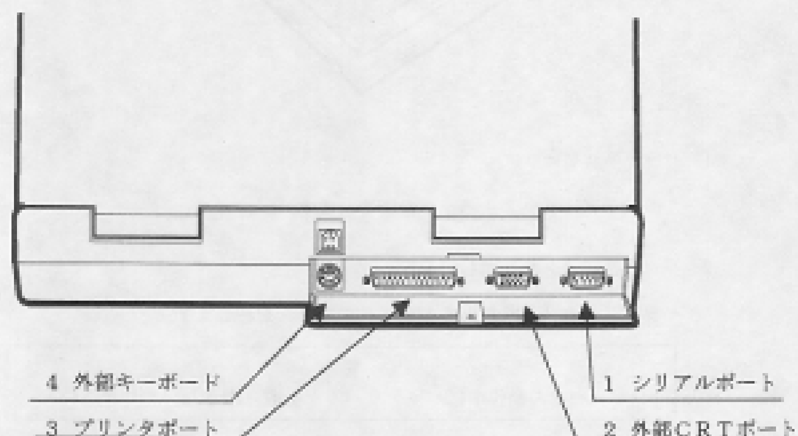
HDDカートリッジを取り出すときにこのボタンを押します。

警告
コンピュータがオンしている間はHDDカートリッジを取り出さないでください。

■周辺装置への接続部

周辺機器の接続方法についてはチャプタ６をお読みください。各ポートにはシンボルマークが刻まれています。各シンボルマークの意味は以下に示すとおりです。

	シリアルポート
	外部ＣＲＴポート
	プリンタポート
	外部キーボード・マウスポート



1 シリアルポート

シリアル接続のケーブルを経由して、外部モデムなどのシリアル周辺機器を接続します。このポート（ＣＯＭ ＰＯＲＴＡ）は通常では"ＣＯＭ１"（アプリケーションが指定するシリアルデバイス番号のこと）に設定されていますが、チャプタ５で説明するようにシステムコンフィグレーションにてＣＯＭ１からＣＯＭ４まで設定することができます。

2 外部ＣＲＴポート

外部ＣＲＴを接続します。

3 プリンタポート

パラレルプリンタをプリンタケーブルを経由して接続することができます。このポートは通常では"ＬＰＴ１"（シリアルポートと同様なポートの設定番号）に設定されていますが必要があればチャプタ５で説明するようにシステムコンフィグレーションにてＬＰＴ１からＬＰＴ３まで設定することができます。

4　外部キーボード・マウスポート

外部用ＰＳ／２キーボードを接続することができます。また別途市販のキーボード・マウスアダプタを使用すればＰＳ／２マウスを接続することもできます。チャプタ６の説明をお読みください。

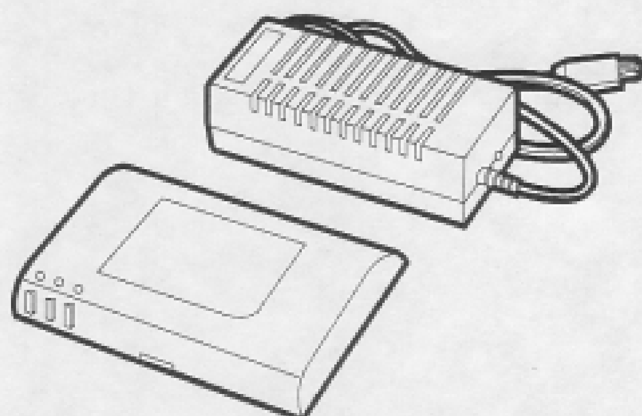
5　ＩＣカードポート

ＰＣＭＣＩＡ規格タイプ２のＩＣカードを２枚まで装着することができます。タイプ３のカードの場合は下のスロットに１枚装着することができます。チャプタ６の説明をお読みください。



電源

ソーテック***WinBook***コンピュータは、専用ＡＣアダプタまたは、充電可能なバッテリパックによって動作します。



コンピュータがオフ状態で、ＡＣアダプタが装着されてから、約２時間で、バッテリパックは満充電の状態になります。

ＡＣアダプタとバッテリパックの使用方法の詳しい内容はチャプタ４をお読み下さい。

WinBookコンピュータはこのほか内部にリチウム電池を装着しています。この電池は

WinBookの時計、カレンダとシステムコンフィグレーション内容を保持するために使用されています。

マイクロコンピュータシステムについて

ソーテック***WinBook***コンピュータは，８０４８６ＳＸまたはＤＸ２またはＤＸ４マイクロプロセッサを搭載しています。クロック速度は選択できます。遅いクロックは電池の使用時間をより長くするために選択することができます。

システムコンフィグレーションプログラムにより，ＣＰＵのクロックスピードを変更することができます。"Ｂｏｏｔ　Ｓｐｅｅｄ"の項目を選択し、上下カーサ移動キーを押すことで，ＦＡＳＴ（速い）またはＳＬＯＷ（遅い）を設定することができます。

また、一時的にクロックスピードをシステムコンフィグレーションを使用することなしに選択することもできます。単に<Ｆｎ>＋<Ｔ>を押してください。（クロックスピードはシステムコンフィグレーションで設定していたクロックスピードに対してもう一つの速度に変化します。）

マイクロトラックボール

ソーテック***WinBook***コンピュータはマイクロトラックボール（以下ＭＴＢと省略します）を装備しています。ＭＴＢは***WinBook***コンピュータの中に収納された状態で出荷されています。使用する場合にはＭＴＢをコンピュータの前に引き出してから使用してください。

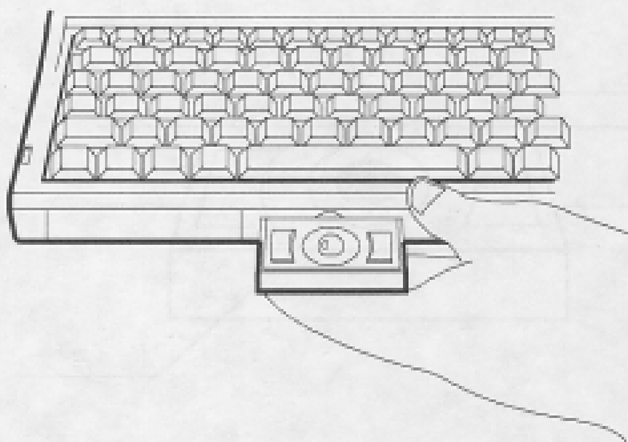
マウスを使用するプログラムの場合には、画面上のポインタを希望の位置に移動するよう、ＭＴＢのボールを上下左右にまわしてください。ＭＴＢのボールの左右のボタンはマウスの左右のボタンにそれぞれ相当します。

トラックボールはどちらかの手の親指で操作します。好みによってどちらかの中指，人差し指で操作することもできます。マウスの場合と同様に、ポインタを動かしたい方向にトラックボールを動かします。

トラックボール（マウス）の使いかたについてはそれぞれのアプリケーションプログラムのガイドを参照してください。

■マイクロトラックボールの引き出し

コンピュータの前面中央にあるＭＴＢを引き出します。ＭＴＢの底面中央にあるギザギザに指をあてて前に引き出します。　トラックボールは引き出す、引き出さないの状態にかかわらず、コンピュータに認識されています。



ＭＴＢはマイクロソフトのシリアルマウスと互換性があります。　外部キーボードポートにキーボード・マウスアダプタを経由してＰＳ／２マウスを接続する場合、または外部シリアルポートにマウスを別途接続する場合はシステムコンフィグレーションプログラムを呼び出してＣＯＭ ＰｏｒｔＢはＤｉｓａｂｌｅにしてください。チャプタ５の説明をお読みください。

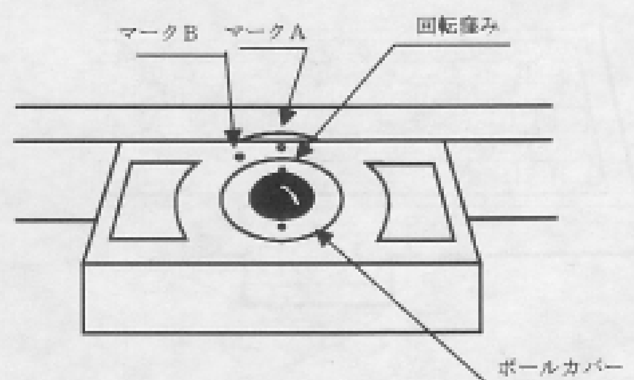
> ノート
> ＭＴＢはマイクロソフトシリアルマウスにコンパチブルです。***WinBook***の第２シリアルポートに内部的に接続されています。このＭＴＢ専用ポート（ＣＯＭ ＰＯＲＴＢ）はシステムコンフィグレーションプログラム（チャプタ５をお読みください。）で、特に必要の無い限り、ＣＯＭ１かＣＯＭ２（デフォルト）にセットしておいてください。ＣＯＭ３，ＣＯＭ４またはＤＩＳＡＢＬＥに設定しておくと、マウスドライバがＭＴＢを認識できなくなります。逆にＭＴＢ以外のシリアルマウスなどを接続する場合は必要に応じてシステムコンフィグレーションにてＤＩＳＡＢＬＥ（禁止）することもできます。

■マイクロトラックボールのクリーニング

WinBookのＭＴＢも他のトラックボールやマウスと同様に長時間使用しているとボールの受動部が汚れてきます。その場合のクリーニング方法について説明します。

- ***WinBook***の電源をオフにします。
- ＭＴＢのボールカバーをボールペンの先等にて回転窪みをマークＡからマークＢに回転移動します。

- ボールカバーとボールが外れますのでＭＴＢ内部の受動部を綿棒等にて傷つけずにクリーニングします。
- 組み立てる場合は、まずボールをセットしてその上からボールカバーを被せ回転窪みをマークＢからマークＡへクリック感があるまで回転移動させます。



コンピュータをスタートさせる

コンピュータをオンする前に周辺機器をすべて接続しておかなければなりません。周辺機器の解説についてはチャプタ６の説明をお読み下さい。

このセクションでは以下の段階を知ることができます。

- ソーテック***WinBook***コンピュータを最初に使用する時
- 内部時計、カレンダの時刻、日付を設定する時

■ここで必要なもの

- ソーテック***WinBook***ノートブックコンピュータ
- 専用ＡＣアダプタ
- 付属のＡＣコード

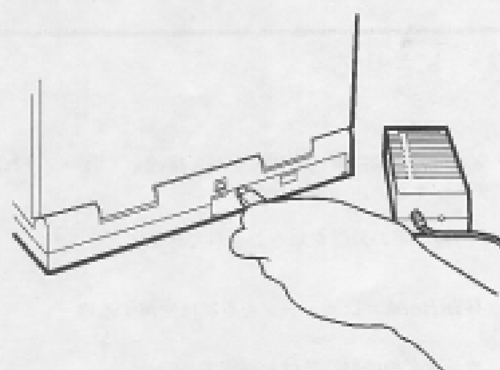
■コンピュータをスタートさせる

ＡＣアダプタを接続します。

コンピュータの出荷時にはバッテリパックは空の状態になっています。ですからコンピュータをスタートさせるときにはＡＣアダプタを用いることが必要です。（バッテリパックについての詳しい内容はチャプタ４の説明をお読みください。）

> 注意
> バッテリパックは出荷時に絶縁紙をはさんで、本体に装着されていまます。チャプタ４のバッテリパックの着脱の項目をお読みのうえ、バッテリパックを取り外して絶縁紙を取り去り、再び装着してください。

ＡＣアダプタのケーブルをコンピュータの後ろにある、ＤＣＩＮコネクタに差し込みます。ＡＣコードの一端をＡＣアダプタに差し込み、もう一端をコンセントに差し込みます。（１００Ｖから２４０Ｖ単相の交流）

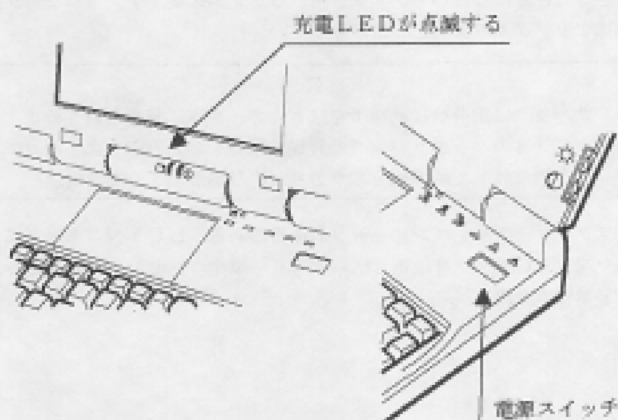


■コンピュータの電源を入れる

もし、まだコンピュータを開けていなければコンピュータのカバーの両脇にある、突起をコンピュータの前に向かってスライドさせながらカバーを持ち上げ開いてください。

もし、バッテリパックがコンピュータにすでに装着されている場合はコンピュータの中央奥の のＬＥＤがオレンジ色に点滅するはずです。これが点滅していることはつまり、バッテリパックが装着され、充電が行われていることを示します。（チャプタ４の充電の項目も併せてお読みください。）

キーボードの右側上部にある、電源ＳＷを押して、はなします。（同じ動作で、コンピュータの電源をオフさせることができます。）



> 警告
> ハードディスクまたはフロッピーディスクドライブがアクセス中である時には絶対に電源をオフさせないでください。　電源をオフしたあとは少なくとも１５秒以上再度オンさせるまで、お待ちください。

数秒後、システムは自己診断機能を自動的に走らせ、その結果を画面に表示します。その後システムは”ＤＯＳプロンプト”を画面に表示させた状態になります。プロンプトにつづいて表示され、点滅しているシンボルは”カーソル”とよばれ、あなたのタイプする文字がつぎにそこに表示されることを示しています。

C:¥>

もし必要なら、ＬＣＤ右側にあるノブを回してコントラストと輝度を見やすいように調整してください。

■内部カレンダ、時計を設定する

ソーテック**WinBook**コンピュータは内部に時計、カレンダ機能をもち、常時これが時を刻んでいます。この情報はデータファイルを作成したり、変更したときやそのほかに利用されます。一番最初にコンピュータをスタートさせたときには日付・時刻は合っていません。日付・時刻を設定するにはＤＯＳコマンドのＤＡＴＥとＴＩＭＥを使用してください。（システムコンフィグレーションにて日付・時刻を合わせることもできますが、ＤＯＳコマンドを使用したほうがより簡単です。）

以下の各ステップは内部時計・カレンダを設定する方法を示しています。ＤＯＳプロンプトにてはじめてください。

1) ＤＡＴＥとタイプして<Ｅｎｔｅｒ>を押してください。

現在の日付が表示され、あなたが新しい日付をタイプするのを待っています。

－英語ＤＯＳ－

Current date is 01-01-1993

Enter new date (mm-dd-yy):_

－日本語ＤＯＳ－

現在の日付は 1993-06-13（日）です。

新しい日付を入力してください。(yy-mm-dd):

もし正しい日付が表示されている場合には<Ｅｎｔｅｒ>を押して、本コマンドを終了させてＤＯＳプロンプトに戻します。もしシステムの日付を変更するなら、

2) 現在の日付をタイプして<Ｅｎｔｅｒ>を押します。

月、日付には１または２ケタの数字を、年には西暦下２ケタの数字をタイプしてください。それぞれの間にはハイフンをタイプしてください。

3) ＴＩＭＥとタイプして＜Ｅｎｔｅｒ＞を押してください。

現在の時刻が表示され、新しい時刻をタイプするのを待っています。

－英語ＤＯＳ－

Current time is 11:23:02

Enter new time:

－日本語ＤＯＳ－

現在の時刻は 13:28:05.06

新しい時刻を入力してください。

もし正しい時刻が表示されている場合には＜Ｅｎｔｅｒ＞を押して、本コマンドを終了させてＤＯＳプロンプトに戻します。もしシステムの時刻を変更するなら、

4) 現在の時刻をタイプして＜Ｅｎｔｅｒ＞を押します。

時間,分,秒をそれぞれ２ケタの数字でコロン"："で区切りながらタイプしてください。（２４時間表記）

コンピュータをリセットする

もしコンピュータが全く何の反応も示さなくなってしまった時にはシステムの電源をオフにし、再度オンにする代わりにリセットをかけることができます。リセット操作はそのかわり、システムがサスペンド状態にある時も含めて全てのＲＡＭの一時的な記憶をすべて消去します。ですから重要なデータはあらかじめディスクにセーブしておくことをおすすめします。

ＭＳ－ＤＯＳにおいてはあなたはキーボードの〈Ｃｔｒｌ〉と同時に〈C〉を押す、または〈Ｂｒｅａｋ〉を押すことにより、プログラムの実行を中止し、ＭＳ－ＤＯＳのコマンドプロンプトに戻ることができます。エラーがおきてしまった場合、リセットをかける前にこの方法を一度試してみてください。

> **警告**
> リセットによる以外のいかなる方法によってもプログラムから抜け出すことができない場合をのぞいてリセットをかけないでください。一部のプログラムは新しいデータをセーブする場合、正規の方法でプログラムを終了させなければならないプログラムがあります。このようなプログラムを使用していてリセットをかけた場合はデータの消失につながる場合があります。

キーボートからコンピュータをリセットする場合は，〈Ｃｔｒｌ〉+〈Ａｌｔ〉+〈Ｄｅｌ〉の各キーを同時に押して下さい。

もし、キーボードが反応しない場合にはリセットボタンを押してください。まちがえてリセットが働からないように、このスイッチは意識的に押しにくいように設計されています。このスイッチを押す場合にはボールペンの先かクリップをまっすぐにした様なもので押して下さい。リセットをかけると画面は一時的に表示が消え、その後コンピュータはＭＳ－ＤＯＳを再びロードします。（ハードディスクまたはフロッピーディスクドライブにＭＳ－ＤＯＳが書き込まれている場合）

チャプタ 2　ディスクドライブ

ソーテック***WinBook***コンピュータには２つのディスクドライブが装着されています。

* ２．５インチ着脱可能なハードディスクドライブ
* ３．５インチ３モードフロッピーディスクドライブ

このチャプタでは

* ハードディスクドライブの手入れと取り扱い方
* フロッピーディスクドライブの手入れと取り扱い方

ハードディスクドライブ

ソーテック**WinBook**コンピュータに装着されているハードディスクドライブは工場組立時にすぐに使用出来るように（パーティションとフォーマット）処理がされています。また¥DOSと名付けられたサブディレクトリが作成され、DOSのファイル類がすでにコピーされています。

ソーテック**WinBook**コンピュータのハードディスクドライブは取り外しが可能です。将来さらに大容量のハードディスクドライブが用意されたときに交換することが可能です。また、別にハードディスクドライブを用意し、そこへ各種のアプリケーションを用意して必要に応じて交換したり、フロッピーディスクを経由し、データをコピーしてそのハードディスクドライブを安全のため、別の場所へ保管しておくなども可能です。

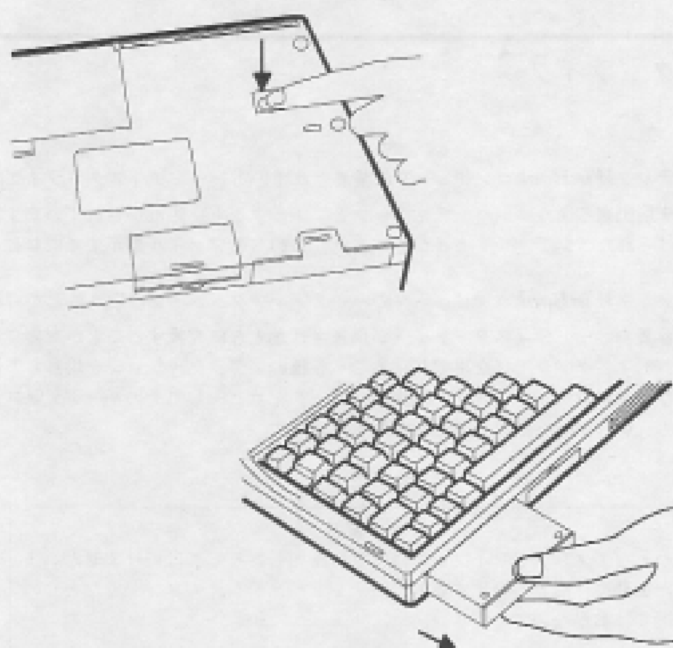
警告
ハードディスクドライブをなげたり、落としたりしてはいけません。また振動や、磁界の発生するもの（テレビやステレオのスピーカなど）の近くにおかないでください。

■ハードディスクを取り外す

警告
ハードディスクを取り外す、あるいは装着するまえに必ずコンピュータの電源がオフになっていることをお確かめください。サスペンド状態でもいけません。またソーテックの純正ハードディスクを御使用ください。

■ハードディスクドライブ（以下HDD）を取り外すには

コンピュータの電源をオフにしてください。（コンピュータはサスペンド・レジューム状態ではいけません。詳しくはチャプタ４の説明をお読みください。）コンピュータ底部にあるHDDカートリッジ取り出しボタンをしっかり押し込んでください。さらにもう一方の手でHDDの下部の前面がわをもちながら、前に向かってゆっくり引き出します。（このときHDDを落としたりしないよう十分注意してください。）



■ハードディスクドライブを装着する

ハードディスクドライブ（ＨＤＤ）を装着するには

1) コンピュータの電源をオフにする。（サスペンド・レジュームモードではいけません。詳しい内容はチャプタ４の説明をお読みください。）

2) ＨＤＤの装着スロットにＨＤＤを静かにスライドさせながら挿入します。底面のＨＤＤイジェクトボタンがたいらになるまでゆっくり押し込みます。ＨＤＤは図に示すような方向にしか装着できません。もしＨＤＤが簡単に挿入できないような時には決して力をこめてはいけません。もう一度正しい向きにＨＤＤの向きを入れ替えてください。

ドライブを装着し終えたらシステムを使用するまえに必ずシステムコンフィグレーションを行わなくてはなりません。ハードディスクに関するセットアップは自動的に行うこともできますし、自分で設定することも可能です。詳細の設定方法についてはチャプタ５のＨａｒｄ Ｄｉｓｋ １の項目をお読みください。

フロッピーディスクドライブ

WinBook本体に内蔵されている３．５イン付フロッピーディスクドライブユニットはＪ２ＳＸ３機種は２モード７２０ＫＢ／１．４４ＭＢですがＪ２ＤＸ２とＪ２ＤＸ４の場合は３モードにて動作可能な為７２０ＫＢ／１．２ＭＢ／１．４４ＭＢにて動作します。詳しい使用方法につきましてはＭＳ－ＤＯＳ６．２／Ｖのユーザーズガイドをご参照ください。又、モードを変更する場合は、システムコンフィグレーションを変更する必要があります。詳しい設定方法についてはチャプタ５をご参照ください。

■*フロッピーディスクの取り扱い方*

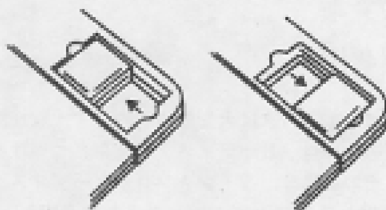
３，５インチフロッピーディスクは大変弱いものです。取り扱いにあたっては十分注意を払ってください。装着してあるフロッピーディスクを使用しつづける場合でも、コンピュータの電源をオフする時には必ずその前に３．５インチフロッピーディスクドライブ（以下ＦＤＤと省略）のイジェクトボタンを押してフロッピーディスクを取り出し、保存に適当な場所に保管して下さい。以下に示すのはフロッピーディスクの取り扱いに関しての注意事項です。

テレビや、電機モータのような電磁気を発生する物のそばにおかないでください。	
特に車の中のような直射日光にあてたり，高温の場所におかないでください。湿度の高いところにおかないでください。	
内部の記録メディアに傷を付けるおそれが有るためシャッタを開けないでください。	
ラベルを貼りつける場合にはその専用のエリアにお貼りください。（一段へこんでいます。）また、別のラベルをはるときには重ねてはらず，まえのラベルをはがして下さい。	

■データ書き込みを禁止する

通常、ＦＤＤに装着されているフロッピーディスクはデータの書き込みも、読み出しも出来るようになっています。もし、そのフロッピーディスクのデータを上書きあるいは消去したくないならば、そのフロッピーディスクを、書き込み禁止にすることができます。（ライトプロテクトする）

それを行うにはフロッピーディスクの裏側を上にします。（フロッピーディスクの中心に金属の円盤が見える方が裏側です。）一方のカドに下図のようなプラスチックの移動させることの出来るノッチがあります。

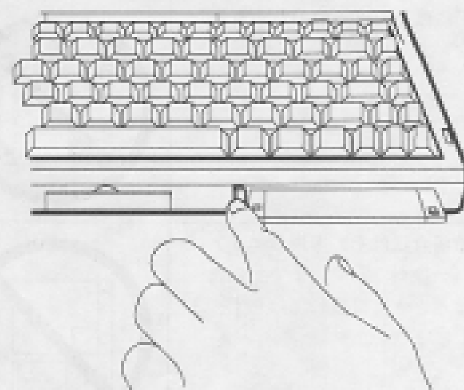


書き込み禁止ノッチが"上側"になっているとき（上図の左がわの状態）は、フロッピーディスクをフォーマットしたり、書き込んだり、その上のファイルを消去することができます。

書き込み禁止ノッチが"下側"になっている（四角い穴が開いている状態）と、フロッピーディスクのデータを消去したり、上書きしたり、どんなデータも追加することは、ふたたび書き込み禁止ノッチを上側にもどさない限りできません。

■フロッピーディスクのＦＤＤへの出し入れ

フロッピーディスクを装着する場合は、ラベル面を上側にし、シャッタのある方をさきにＦＤＤの中に挿入します。フロッピーディスクを正しく装着できた場合は、ＦＤＤイジェクトボタンが飛び出します。フロッピーディスクを取り出すときにはＦＤＤイジェクトボタンをおして、フロッピーディスクを取り出します。



■３モードＦＤＤの使用方法

Ｊ２ＤＸ２／５０ＣｉとＪ２ＤＸ４／１００ＣｉはＭｉｃｒｏｓｏｆｔ®ＭＳ－ＤＯＳ®Ｖｅｒｓｉｏｎ６．２／Ｖの３モード対応ユーティリティ（１０２４ＦＤ）をサポートしております。

汎用的なＤＯＳ／Ｖ機にて使用可能なフォーマット７２０ＫＢと１．４４ＭＢに加えて１．２ＭＢフォーマットのフロッピーディスクの読み書きを可能にします。

Ｊ２ＤＸ２／５０ＣｉとＪ２ＤＸ４／１００Ｃｉを３モード対応にするには２通りの方法があります。

１　ＣＯＮＦＩＧ．ＳＹＳに組み込む方法

ＣＯＮＦＩＧ．ＳＹＳに下の１行を追記します。

ＤＥＶＩＣＥ＝Ｃ：￥ＤＯＳ￥１０２４ＦＤ．ＥＸＥ

２　ＭＳ－ＤＯＳプロンプト上にて組み込む方法

ＤＯＳプロンプト状態にて下記のコマンドを入力します。

１０２４ＦＤ＜Ｅｎｔｅｒ＞

注意

１０２４ＦＤユーティリティは１．２ＭＢのフォーマットディスクのリード／ライトのみをサポートするもので、フロッピーディスクのフォーマットは行えません。又、フロッピーディスクからの起動も行えません。

注意

１０２４ＦＤが組み込まれている状態の時ＷｉｎｄｏｗｓのＤＯＳプロンプトモードにてＣＯＰＹコマンドを使用する場合には、ベリファイオプション ／Ｖ は使用しないでください。Ｗｉｎｄｏｗｓが異常動作して、ＦＤＤデータが破壊されたり、実行中のアプリケーションが強制終了される可能性があります。

チャプタ 3　キーボード

ソーテック***WinBook***とコミュニケートするためにこのキーボードは大切な役割をはたします。

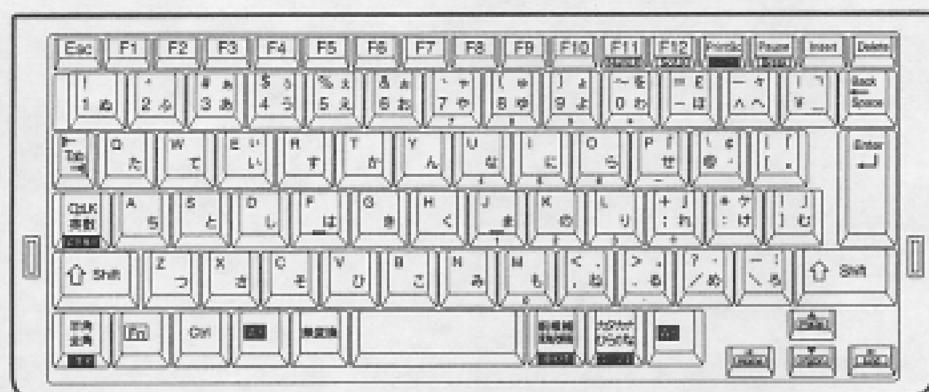
このキーボードは拡張日本語キーボード（１０６キー）と互換性を持っています。このチャプタではこのキーボードを使いこなすための方法を説明します。

このチャプタでは

- キーボードの各部
- キーボードを使う
- エンベデッドキーを使う
- システムファンクションキー（システムの機能活用のための特別キー組み合わせ）
- 日本語入力

キーボードの各部

以下の図はソーテック***WinBook***コンピュータのキーボードをあらわしています。



およそ、以下の各部分がそれぞれ説明のように機能します。

■ファンクションキー（F１．．．F１２）

各プログラムにより、これらのキーはファイルをセーブ、ロードしたり、オンラインヘルプを画面に表示させたり、プログラムを終了させたりするためのキーとして定義されます。DOSにおけるこれらのキーの機能は（その他にプログラムを動作させていない状態で、）MS－DOSのマニュアルに説明されています。

■文字入力キー

これらはまた、英数字またはカナ数字キー（アルファニューメリックキー）ともよばれます。これらのキーは、このチャプタで説明する使い方をのぞき、ちょうどタイプライタと同じ使い方をします。

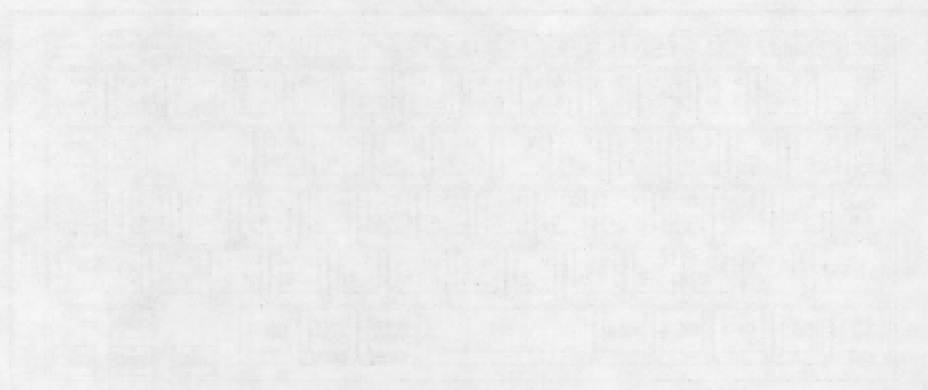
■カーサキー

カーサはタイプする文字が次に表示される場所を示す、画面上の小さなシンボルです。DOSとDOSのアプリケーションにおいてはそれは通常点滅する下線（アンダーライン）です。Ｗｉｎｄｏｗｓ、またそのアプリケーションにおいてはそれは一般的に”カーソル”と呼ばれ、それはたての線として表示されます。アプリケーションプログラムはカーサキー（またはマウス）を使用してファイルの中身を画面に表示し、処理を行いたい場所を指定するのに使用されます。

■その他のキー

幾つかのその他の機能キーが存在し、このチャプタの中で説明されています。

このチャプタのおわりにシステムの機能について説明を行っています。このセクションではマイクロプロセッサのスピードの変更や、システムコンフィグレーションをよびだす、その他についてのキー組み合わせ（キーコンビネーション）を一覧にしています。



キーボードを使う

多くのキーのその機能は今使用している、アプリケーションプログラムによって変わってきます。このセクションではほとんどのＭＳ－ＤＯＳコマンドで共通であり、また一般的なアプリケーションプログラムでも通用する使い方を解説しています。このキーボードはＤＯＳ／Ｖ上でのキー操作に対応しています。

日本語入力に関する詳しい内容は”日本語入力”の項目をお読みください。

■編集する

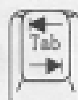
編集に使用するキー群は一般的なワープロ、タイプライタでの使い方と共通です。

文字入力キー部

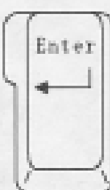
文字と数字をタイプするのにこれらのタイプライタキーを使用します。しかしながら、文字”ｌ”と数字”１”は混同しないように注意してください。また文字”Ｏ”と数字”０”も同様に混同しないように注意してください。コンピュータはこれらの文字と数字は”違うもの”として区別します。間違えて入力するとコンピュータの処理結果として期待とちがったものになります。



〈スペースバー〉キーを押すことにより、現在のカーサのある場所にスペースを挿入し、カーサを１スペース分右に移動します。



通常は〈Ｔａｂ〉（タブ）キーを押すことにより、カーサを次のＴａｂストップまで移動させます。一部のプログラムでは、Ｔａｂキーを押すことにより、画面上の次の項目に移動するように、使われることもあります。〈Ｓｈｉｆｔ〉＋〈Ｔａｂ〉によってカーサを一つまえのＴａｂストップに移動させることもできる場合があります。



この＜Ｅｎｔｅｒ＞（エンター）キーを押すことによる動作は各アプリケーションによりかなりまちまちです。いくつかの場合ではこのキーはちょうどタイプライタのキャリッジリターンと同じ動作をします。つまり、カーサは一行下にさがり、画面の一番左に移動します。その他のケー

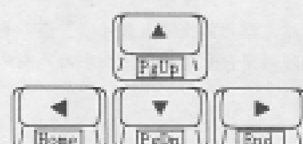
ヌでは、〈Ｅｎｔｅｒ〉はコンピュータで動作しているプログラムの動作を決定させるように使われます。例えばＥｎｔｅｒにより、新しい画面を表示させたり、書類をプリンタに出力したり、などです。



ほとんどのプログラムで、Ｂａｃｋｓｐａｃｅ（バックスペース）キーはカーサを１スペース分左にうごかし、その場所にあった文字を消去します。



＜Ｄｅｌ＞（デリート）キーはふつうはカーサのあるところの文字を消去または右側の文字を消去し、右側の残りの文字列を左に移動させせます。



使っているアプリケーションプログラムがカーサ移動機能を持っている場合、ソーテック ***WinBook***のキーボードはカーサを動かすために２つの方法を提供しています。

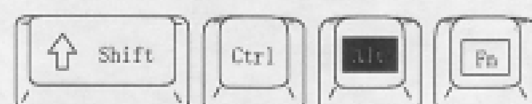
- 右下にある、４つのカーサ移動キーを使う。
- ＜Ｆｎ＞＋＜ＰｇＵｐ＞、＜ＰｇＤｎ＞、＜Ｈｏｍｅ＞，＜Ｅｎｄ＞にて移動する。

（多くのアプリケーションプログラムはまたカーサを移動させるためにマウスまたはマイクロトラックボールを使うこともできるようになっています。）

各キーはそのキーに印刷されている矢印の方向に画面上のカーサを移動させるのに使用します。ほとんどのアプリケーションにおいてこれらのキーを用いてカーサを移動させても画面の内容は変化しません。

また＜Ｆｎ＞＋カーサキーにて画面のページ切り替えのキーの機能として使用することができます。それぞれのキーの前面に四角で囲んであるように機能します。

■シフトキーなど



これらのキーはその他のキーと組み合わせて使用されます。ほとんどのアプリケーションではこれらのキー単体を押しても何の動作もできません。こういったキーとして＜Ｓｈｉｆｔ＞（シフ

ト）、＜Ｃｔｒｌ＞（コントロール）、＜Ａｌｔ＞（オルタネート、オルトとも言います。）、＜Ｆｎ＞（エフエヌキー、ファンクションキー（Ｆ１からＦ１２）と区別するためこのように言います。）があります。使用する場合はその他のキーと共に押す様にします。たとえば＜Ｃｔｒｌ＞＋＜Ｃ＞を入力する場合は、＜Ｃｔｒｌ＞を押しながら＜Ｃ＞のキーを押してやります。

ほとんどのプログラムでは、英数モードにて＜Ｓｈｉｆｔ＞はちょうどタイプライタのシフトキーと同じ使い方をします。つまり、大文字を入力したいときにはその文字のキーと共に＜Ｓｈｉｆｔ＞を押します。しかしながら、ＣＡＰＳロックの状態にあるときには＜Ｓｈｉｆｔ＞と共に文字キーを押すと小文字が入力されます。また四角で囲まれたキー＜ＮｕｍＬｋ＞、＜ＳｃｒＬｋ＞，＜Ｈｏｍｅ＞，＜Ｅｎｄ＞，＜ＰｇＵｐ＞，＜ＰｇＤｎ＞は＜Ｆｎ＞と組み合わせることで機能させます。

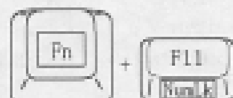
またフルキーボード（１０６キー）の右コントロールキーは＜Ｆｎ＞＋＜Ｃｔｒｌ＞にて入力できます。

■トグルキーのなかま

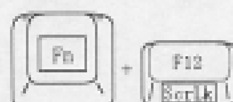
トグルキーと呼ばれるこれらのキーはそのキーを一回押すことにより、それぞれのキーも持つ２つの状態を切り替えることができます。キーをもう一度押すことにより、また元の状態にもどります。ステータスＬＥＤは３つの標準トグルキーの現在の状態を表示してくれています。各ＬＥＤが点灯しているときはその状態が有効になっていることを示します。また日本語入力特有のトグルキーについては"日本語入力"にて詳しく説明しています。



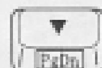
英数モードにてＳｈｉｆｔを使用せずに大文字（Ａ－Ｚ）を入力したいときには＜Ｓｈｉｆｔ＞＋＜ＣｐＬｋ＞を押して下さい。ＣＡＰＳロックがオンのときに＜Ｓｈｉｆｔ＞を使うと小文字が入力されます。ＣＡＰＳロックはそのほかのシフト可能な文字に対しては影響を出しません。たとえば４をＣＡＰＳロックがオンの時に押すと４が入力されます。＄は入力されません。



ＮＵＭロックをオンにすることによって、エンベデッドニューメリックキーパッドを使用できる状態にします。ニューメリックキーパッドの使い方についてはこのチャプタの後半にある、"エンベデッドキーパッドを使う"の項目をお読みください。



一部のプログラムでは、ＳＣＲＬロックはカーサの制御に関する動作が変わったりします。例えば



、はカーサを一行下に移動させるのではなく、カーサを動かさずに表示内容を１行分上に移動させるように変化します。



文字をタイプすると、通常はカーサのある場所に文字がインサートされて、その他の文字は右に押されて移動してゆきます。いくつかのプログラムでは"タイプオーバ（上書き）"のモードを提供しています。この場合、タイプされた文字はすでにあるカーサのある文字を書き換えていきます。このようなプログラムの場合、一般的にこの＜Ｉｎｓｅｒｔ＞キーを使ってタイプオーバ（上書き）モードとインサートモードを切り替えることができます。通常はこの場合、インサートモードなのかどうかそれを示すため画面に表示が現われます。

■ファンクションキー



ファンクションキーはキーボードの一番上の行にあります。これらのキーの機能はあなたの使用しているプログラムにより決められます。

ＭＳ－ＤＯＳでは，例えば＜Ｆ３＞を押すことにより直前にＤＯＳプロンプトであなたがタイプしたコマンドをもう一度表示させることができます。＜Ｅｎｔｅｒ＞を押すことでもう一度このコマンドを実行することができます。（＜Ｂａｃｋｓｐａｃｅ＞にて消すこともできます。）

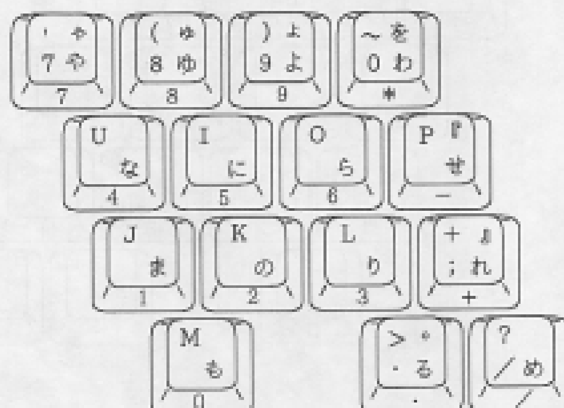
■エスケープキー



＜Ｅｓｃ＞と印刷されているキーは"エスケープ"キーと呼び、それぞれのアプリケーションプログラムに依って色々な目的に使われます。いくつかのプログラムでメニューを表示しているときにＥｓｃを押すと現在のメニューをぬけだし、一つ段階の高いメニューに移ることが出来ます。

ＤＯＳにおいてはコマンドをタイプしたあとに（＜Ｅｎｔｅｒ＞を押す前に）＜Ｅｓｃ＞を押せばバックスラッシュ（日本語モードでは￥）を表示させてこのコマンドをキャンセルすることができます。ここで＜Ｅｎｔｅｒ＞を押せばＤＯＳプロンプトにもどることができます。

エンベデッドキーを使う



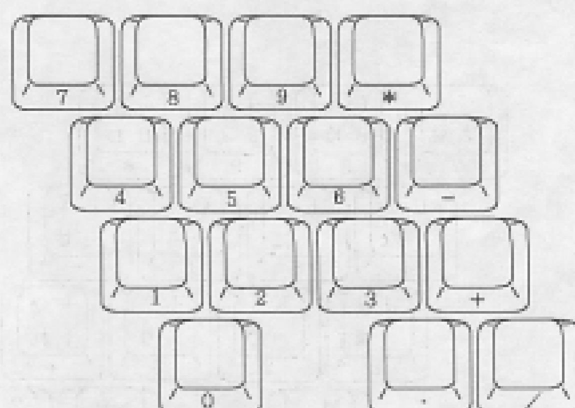
キーボードのなかで、エンベデッドキーパッドの部分は２つのちがった使い方があります。

- 通常の使い方（Ｊ，Ｋのキーなど）
- 数字キーとして使う（０－９や＋、ーなど）ほとんどの場合文字入力キーとしてこれを使う事になるでしょう、けれども書類やスプレッドシートのなかで、たくさんの数値を入れたい場合にはNUMロックモードにしてこのエンベデッドキーを使うことができます。それではそのモードについてに説明します。

数値データの入力

エンベデッドキーパッドを数値キーとして使用することにより，数値データの入力を簡単にすることができます。NUMロックモードにするには＜Ｆｎ＞＋＜Ｎｕｍ＞を押します。ステータスＬＥＤのＮｕｍ　Ｌｏｃｋマークの LEDが点灯する（チャプタ１を参照）ことで、下図の様な

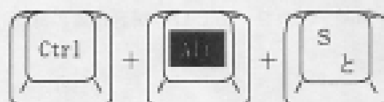
数値が入力できることを示しています。



システムファンクションキー（システム制御キー）

ソーテック***WinBook***コンピュータのキーボードにはいくつかのコンピュータの動作を設定するための重要な機能があります。

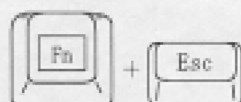
■システムコンフィグレーション



＜Ｃｔｒｌ＞＋＜Ａｌｔ＞＋＜Ｓ＞を押すことで、システムコンフィグレーションプログラムをスタートさせることができます。システムコンフィグレーションプログラムにより、システムの状態を決めるための設定を行うことができます。さらに詳しいことについてはチャプタ５の”システムコンフィグレーション”の項目をお読みください。

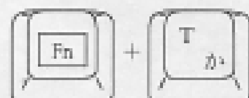
> **警告**
> システムコンフィグレーションをスタートさせるとそのあと必ずシステムをリスタートしなければなりません。アプリケーションプログラムではデータをセーブし、プログラムを終了させてください。そうでない場合データの消失を招く場合があります。

■パワーマネージメント



＜Ｆｎ＞＋＜Ｅｓｃ＞を押すことで、バッテリの使用時間を延長させる為のサスペンド・レジューム、スタンバイの機能を設定するパワーマネージメント（ＰＭ）メニューを呼び出すことができます。さらに詳しいことについてはチャプタ５の”システムコンフィグレーション”の項目をお読みください。

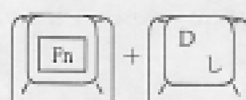
■クロックスピードの選択



＜Ｆｎ＞＋＜Ｔ＞を押すことでソーテック***WinBook***コンピュータのＣＰＵのスピードを高い速度（ＦＡＳＴ）から低い速度（ＳＬＯＷ）に切り替えることが出来ます。低い速度にすることで

よりバッテリの消費を押さえることができます。この選択を行うたびにクロックのスピードが切り替わります。

■ＬＣＤ画面白黒反転



＜Ｆｎ＞＋＜Ｄ＞を押すことによりＬＣＤの白黒表示を反転させることができます。白のバックグランドに黒の文字の表示と黒のバックグランドに白の文字の表示をそれぞれ交互に切り替えます。（この機能は白黒ＬＣＤのみに有効です。カラーＬＣＤの場合はこの機能は働きません。）

日本語入力

日本語MS－DOS上にて文字各種を入力する方法について説明します。

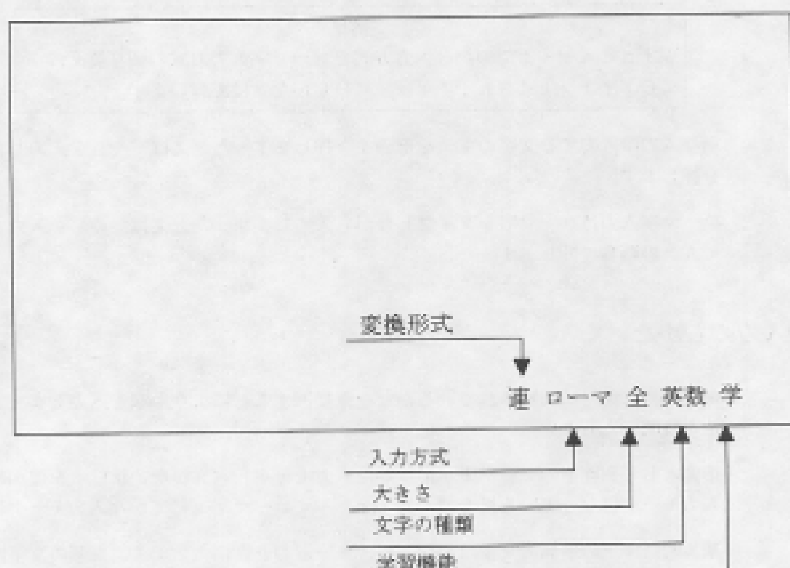
（Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ®ＭＳ－ＤＯＳ®Ｖｅｒｓｉｏｎ６．２／Ｖ）

- 文字をタイプするには
- かな入力のしかた
- ローマ字の入力のしかた
- 漢字を入力する（単漢字変換）
- コード入力モード

■文字をタイプするには

ここではひらがな、カタカナ、アルファベット、数字、記号等の入力方法について説明します。

画面の左下に現在の入力モードを表示しています。準備として＜Ａｌｔ＞＋＜漢字＞を押し日本語入力モードにしてください。解除する方法も同じです。



1　文字の種類

入力できる文字の種類は 大きく分けてかな カナ 英数 の３種類あります。

表示	モード	切替キー（トグル）
かな	ひらがな等の入力モード	＜ひらがな＞

カナ	カタカナ等の入力モード	<Ｓｈｉｆｔ>＋<カタカナ>
英数	英数等の入力モード	<英数>

2　大きさ

入力できる文字の大きさは半角、全角の２種類あります。

表示	モード	切替キー（トグル）
半	半角入力モード	<半角/全角>
全	全角入力モード	<半角/全角>

半角文字の幅は全角文字の半分です。またひらがなと漢字には「全角」しかありません、半角モードのときでも全角にて入力されます。

3　かな入力方式とローマ字入力方式

入力方法は２種類あります。

表示	モード	切替キー（トグル）
R	ローマ字入力モード	<Ａｌｔ>＋<ローマ字>
なし	かな入力モード	<Ａｌｔ>＋<ローマ字>

補足
Ｗｉｎｄｏｗｓ上でのかな入力方式とローマ字入力方式の切り替えは<Ｃｔｒｌ>＋<Ｓｈｉｆｔ>＋<ひらがな>にて行います。

かな入力は入力する文字のキーをそのまま押します。たとえば「や」を入力したい場合は<や>を押します。

ローマ字入力はローマ字をタイプしながら入力します。たとえば「や」を入力するには<Ｙ><Ａ>の順番で押します。

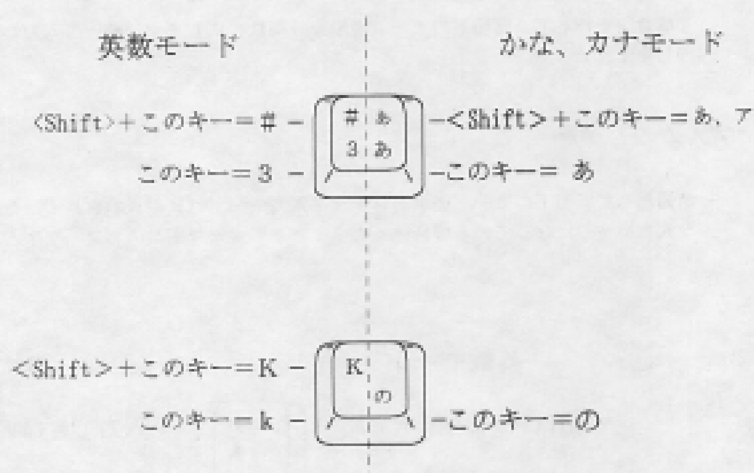
■かな入力のしかた

かな入力はキーに印刷されているかなを直接押すことによりかなを入力します。その基本的な方法を説明いたします。

準備として画面下のモード表示が「かな入力モード」（Ｒがない状態）を確かめます。ローマ字入力モードになっている場合は<Ａｌｔ>＋<ローマ字>にてかな入力モードにします。

基本的にキーの右側の文字はかな、カナモードのときに入力でき、左側の文字は英数モードのとき入力が可能になります。またキーの下側はそのまま、キーの上側は<Ｓｈｉｆｔ>を押しなが

ら押すと入力できます。



1 ひらがな

<ひらがな>を押して、画面下のモード表示を「かな」にして直接そのかなキーを押し入力します。小さなひらがな（ぁ、ぃ、ぅ、ぇ、ぉ、っ、ゃ、ゅ、ょ、を）の場合は<ｓｈｉｆｔ>を押したままそのキーを押します。

2 カタカナ

<Ｓｈｉｆｔ>＋<カタカナ>を押して、画面下のモード表示を「カナ」にして直接そのかなを押し入力します。小さなカタカナ（ァ、ィ、ゥ、ェ、ォ、ッ、ャ、ュ、ョ、ヲ）の場合は<Ｓｈｉｆｔ>を押したままそのキーを押します。

3 数字

<英数>を押して、画面下のモード表示を「英数」にします。続いて入力したい数字キーを押します。

4 アルファベット小文字

<英数>を押して、画面下のモード表示を「英数」にします。続いて入力したいアルファベットキーを押します。

5 アルファベット大文字（１文字）

<英数>を押して、画面下のモード表示を「英数」にします。続いて<Ｓｈｉｆｔ>を押しながら入力したいアルファベットキーを押します。

6 アルファベット大文字（連続）

<英数>を押して、画面下のモード表示を「英数」にします。続いて<Ｓｈｉｆｔ>を押しながら<英数>を押すとロックがかかります。そして入力したいアルファベットキーを押します。

7 かな記号（『、』、ヶ、。、・、￡、￠、等）

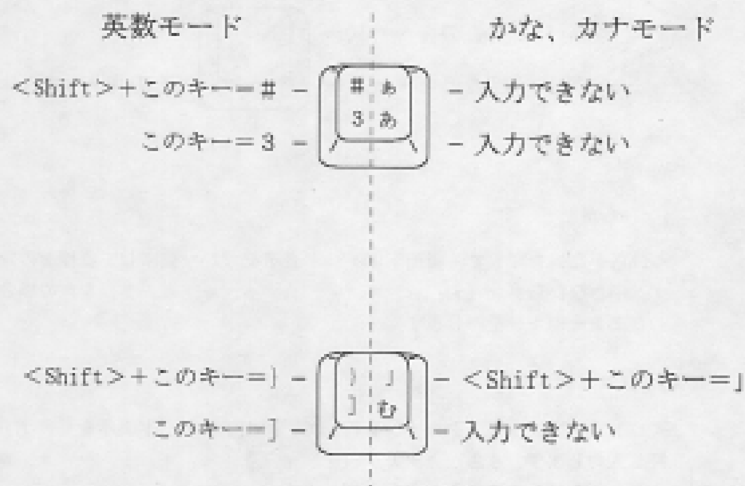
<ひらがな>を押して、画面下のモード表示を「かな」にします。続いて入力したいかな記号キーを押します。

8　英記号（!，@，#，$，%，^，&，*，等）

＜英数＞を押して、画面下のモード表示を「英数」にします。続いて入力したい英数記号キーを押します。

■ローマ字入力のしかた

準備として画面下のモード表示がローマ字入力モード（Rが表示されている）を確かめます。かな入力モードになっている場合は＜Ａｌｔ＞＋＜ローマ字＞にてローマ字入力モードにします。



基本的にキーの左側の文字は英数モードにて有効になり右側はかな記号のみ有効になります。

1　ひらがな

＜ひらがな＞を押して、画面下のモード表示を「かな」にして入力したい文字のローマ字をタイプします（例：「や」なら＜Ｙ＞＜Ａ＞）。小さなひらがな（ぁ、ぃ、ぅ、ぇ、ぉ、っ、ゃ、ゅ、ょ）の場合はそのローマ字の前に＜ｘ＞をタイプします。（例：「ゃ」なら＜Ｘ＞＜Ｙ＞＜Ａ＞）

2　カタカナ

＜カタカナ＞を押して、画面下のモード表示を「カナ」にして入力したい文字のローマ字をタイプします（例：「ヤ」なら＜Ｙ＞＜Ａ＞）。小さなひらがな（ァ、ィ、ゥ、ェ、ォ、ッ、ャ、ュ、ョ）の場合はそのローマ字の前に＜ｘ＞をタイプします。（例：「ャ」なら＜Ｘ＞＜Ｙ＞＜Ａ＞）

3　数字

「かな」、「カナ」、「英数」いずれのモードであっても入力することが可能です。

4　アルファベット小文字

＜英数＞を押して、画面下のモード表示を「英数」にします。続いて入力したいアルファベットキーを押します。

5　アルファベット大文字（１文字）

＜英数＞を押して、画面下のモード表示を「英数」にします。続いて＜Ｓｈｉｆｔ＞を押しながら入力したいアルファベットキーを押します。

6　アルファベット大文字（連続）

＜英数＞を押して、画面下のモード表示を「英数」にします。続いて＜Ｓｈｉｆｔ＞を押しながら＜英数＞を押すとロックがかかります。そして入力したいアルファベットキーを押します。

7　かな記号（『，』、ヶ、。、・、£、¢、等）

＜ひらがな＞を押して、画面下のモード表示を「かな」にします。続いて入力したいかな記号キーを押します。

8　英記号（！，＠，＃，＄，％，￣，＆，＊，等）

＜英数＞を押して、画面下のモード表示を「英数」にします。続いて入力したい英数記号キーを押します。

■漢字を入力する

Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ®ＭＳ－ＤＯＳ®Ｖｅｒｓｉｏｎ６．２／Ｖの添付マニュアル”日本語入力ガイドＭＳ　ＩＭＥ”に入力方法が記載されていますのでご参照願います。

■コード入力モード

Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ®ＭＳ－ＤＯＳ®Ｖｅｒｓｉｏｎ６．２／Ｖの添付マニュアル”日本語入力ガイドＭＳ　ＩＭＥ”に入力方法が記載されていますのでご参照願います。

チャプタ 4　電源

ソーテック***WinBook***コンピュータは１００－２４０Ｖ単相の交流電源からＡＣアダプタを使って駆動するか、または内蔵の充電式バッテリパックにより、駆動する事ができます。このチャプタではＡＣアダプタとバッテリ電源についての一部の重要な説明と消費電力の低減（パワーセーブ）の方法を含め解説しています。”はじめるまえに”にある、各注意などを御理解頂いていないようでしたら、お読みください。

このチャプタでは

- ＡＣアダプタを使う
- バッテリパックを充電する
- バッテリパックを使う
- バッテリパワーを節約する
- バッテリパックを交換する

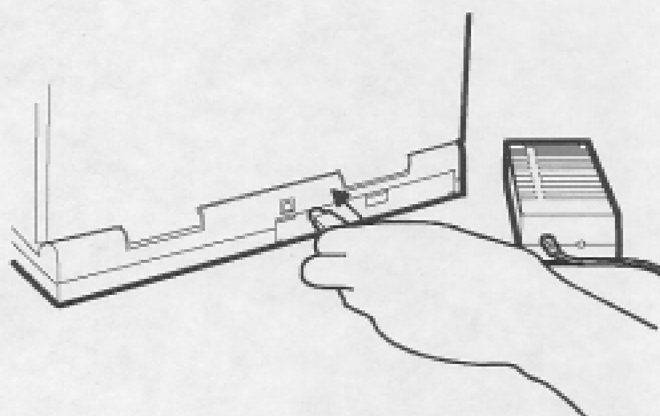
ＡＣアダプタの仕様

入力電圧	１００－２４０ボルト単相　交流　（自動電圧切り替え）
入力電流	０．６－０．２アンペア
周波数	５０または６０ヘルツ
出力電圧	１９ボルト
出力電流	１．３アンペア
動作温度範囲	５－３５℃

■ＡＣアダプタを接続する

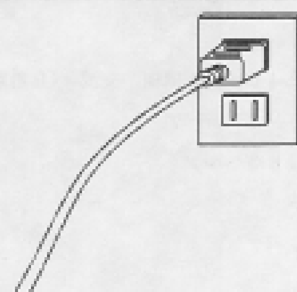
ソーテック***WinBook***コンピュータに添付されたＡＣアダプタ以外は絶対に使用しないでください。ＡＣアダプタを使ってシステムを動作させる場合には以下のようにします。

1）コンピュータの後ろにあるＤＣＩＮのコネクタにＡＣアダプタのコードを差し込みます。



2）ＡＣコードをＡＣアダプタに接続します。

3) ＡＣコードのもう一方をＡＣコンセントに差し込みます。下図をご覧ください。

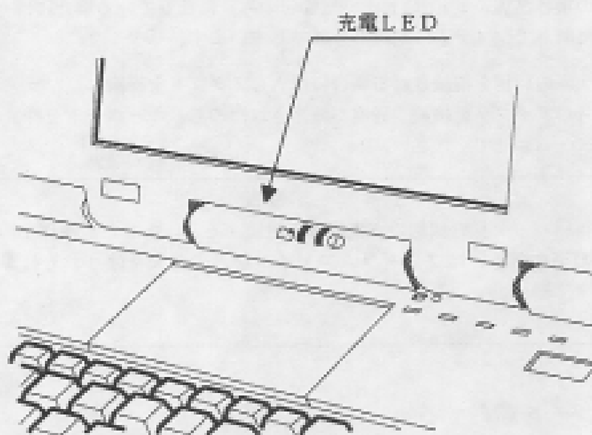


バッテリで動作させる

システムが出荷される時には、内蔵のバッテリパックは充電されていません。バッテリでシステムを動作させるときにはその前にバッテリパックの充電を完全に行ってください。コンピュータの電源をオフの状態にし、ＡＣアダプタを接続し、充電ＬＥＤが点灯状態になるまで、そのままにしておきます。電池を充電するにはシステムオフの状態で、約２時間かかります。（システムオンの状態では、充電はできません。）

■充電ＬＥＤ

ＬＣＤ画面の下部のまんなかにある、充電ＬＥＤは現在のバッテリパックの状態を示しています。もし完全に充電されていればＬＥＤは点灯しています。点滅していればバッテリパックは充電中であることを示しています。バッテリパックが入っていない、またはバッテリパックが入っていてもＡＣアダプタが接続されていない場合は消灯しています。



ＬＥＤの点灯	状態
点滅	バッテリパックは充電中で完全に充電はされていません。
点灯	バッテリパックは満充電になっています。
消灯	ＡＣアダプタが通電されていない状態です。 またはバッテリパックが正しく装着されていないか、充電中にそれ以上充電を継続できない状態です（充電に適した温度条件を逸脱しているなど）。

■バッテリパックの充電モード

ソーテック**WinBook**コンピュータではバッテリパックはシステムがパワーオフのとき急速充電を行います。システムがパワーオンの時には充電は行われません。

■バッテリの放電の状態を知る

あなたはバッテリパックを使用しているときにそのバッテリの残量が少なくなった場合（ローバッテリ）、以下の２つの方法でコンピュータが警告を発します。

- 電源ＬＥＤが緑からオレンジに変化する。
- 約１６秒ごとに"ピッ"という音がする。

バッテリパックの容量は残り少なくなっていることを示しています。あなたはすぐにコンピュータのデータをセーブし、ＡＣアダプタでシステムをオフにして充電を行うか、バッテリパックを交換してください。（このチャプタの後半のバッテリパックの交換の項目をお読みください。）

またパワーマネージメントメニューにおいてＢａｔｔｅｒｙ Ｌｏｗ：の項目がＳｕｓｐｅｎｄに設定されている場合、システムはバッテリの残量が大変少なくなったときに自動的にコンピュータの現在実行中のプログラムを停止し、サスペンド状態に入ります。もしＢａｔｔｅｒｙ Ｌｏｗ：の項目がＷａｒｎ Ｏｎｌｙ（警告のみ）になっている場合にはバッテリパックの容量がなくなった時点でシステムは電源がきれてしまいます。

システムの利用を継続される場合にはＡＣアダプタを接続し、バッテリパックを交換してください。ＡＣアダプタを接続、通電が確認されたのち、キーボードを押すか、電源スイッチを押してレジュームさせてください。

警告
ローバッテリの状態のまま操作を継続すると、あなたが操作中のデータの消失あるいはプログラムファイルなどの消失を伴うおそれがあります。

■バッテリのパワーを節約する

コンピュータの使い方により、バッテリパックの使用時間は変化します。バッテリパックの電力を節約するために以下にいくつかのヒントを示します。

- ＬＣＤの輝度を暗くする。
- ＬＣＤの照明も含めてソーテック**WinBook**コンピュータの各構成部品を使用しないときには電源を切ってしまう、パワー制御機能を活用する。（チャプタ５に説明されています。）特にグローバルスタンバイモードでは消費電力を極めて少なくすることが可能です。
- このあと説明している、サスペンド・レジュームモードを使用する。

また以下の行為は消費電力の増大を招きます。

- ハードディスクまたはフロッピーディスクをアクセスする。
- メモリを追加する。（オプションＲＡＭモジュール）

■サスペンド・レジューム機能を使う

サスペンド・レジュームモードをパワーマネージメントメニューにて選択する（チャプタ５の"システムコンフィグレーション"の項目に説明されています。）ことにより、コンピュータをオフの状態にしてもサスペンド状態に維持させることができます。大変少ない電力で、現在使用中のオペレーティングシステム、アプリケーションをそのままの状態でメモリのなかに保持させていくことができます。コンピュータをオンにすると前にコンピュータをオフの状態にしたときの元の状態に復帰させる事ができます。

コンピュータを長い時間サスペンド状態にしておくことはおすすめできません。なぜなら少量の電力でも長時間放置しておくとバッテリパックの電力は消費されているからです。

■バッテリを交換する（バッテリパック）

このセクションではどのようにしてソーテック**WinBook**コンピュータの底面に装着されているバッテリパックを交換するかについて説明しています。

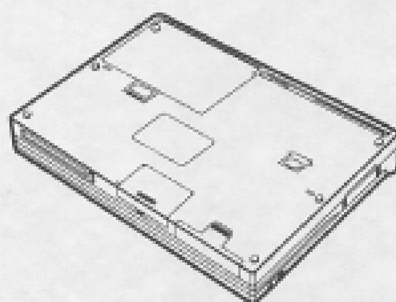
> 警告
>
> このコンピュータ専用のバッテリパック以外の電池を使用すると、爆発、火災の起るおそれがありますので十分御注意ください。ソーテック純正のソーテック**WinBook**コンピュータ専用バッテリパックを御使用下さい。又、バッテリパックの分解、破損、火中への投入、加熱、端子の短絡等は絶対に行わないでください。

コンピュータが動作している状態（サスペンド中も含みます）ではあなたはＡＣアダプタを接続してＡＣアダプタから電源が供給されているときのみ、バッテリパックを交換することができます。

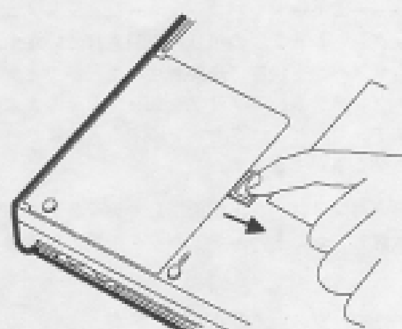
バッテリパックを交換する前に電源ＬＥＤが黄色に点灯していることをあらかじめお確かめください。緑またはオレンジの状態ではバッテリパックの交換はできません。もしこの様な場合はコンピュータのデータをディスクセーブするか、ＡＣアダプタをさしこんで、アダプタからの電源供給を行ってください。

バッテリパックの交換は以下のように行います。

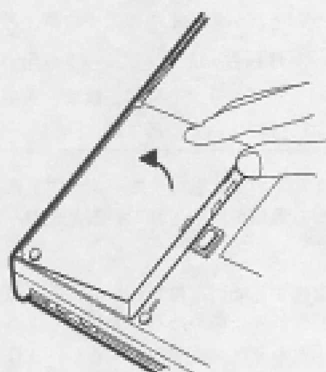
1) コンピュータを裏返しにします。



2) バッテリパックの前にある、バッテリパック取り出しボタンをコンピュータの前方に向かってスライドさせます。（チャプタ１の各部の説明の項目をご覧ください。）



バッテリパックが少しだけ持ち上がりますので、そのまま静かにバッテリパックの前方向の縁を持ち上げて取り外します。



3) 交換用のバッテリパックを装着します。バッテリパックの端子面がコンピュータの前面に向かう方向にして、バッテリパックの後ろ側の突起部を先に装着エリアにあわせてはめ込みます。そのあと前の部分を静かにはめてゆき、バッテリパック取り外しボタンがラッチするまで静かに押し込みます。



チャプタ 5　システムコンフィグレーション

ソーテック***WinBook***コンピュータに組み込まれている、システムコンフィグレーションプログラムはその基本的な各種機能を確認したり、設定を変更したりするために使用されます。その中にはメモリの容量、オプションを着脱、ＣＰＵのスピードを変更、システムのセキュリティ、パワーマネージメントの設定変更などその他の目的にも使用されます。

このチャプタでは

- システムコンフィグレーションプログラムをスタートさせ、使うまでを説明します。

システムコンフィグレーションについて

ソーテック***WinBook***コンピュータにはいくつかの重要な情報をコンピュータがオフの状態でも記憶しています。システムをスタートさせるときいつもこの情報がシステムに読み込まれます。このシステムコンフィグレーションプログラムは以下の項目を行うことができます。

- 日付と時間を変更する。
- 増設したオプションの状態を設定する。または既存のハードウエアの機能を変更する。
- パスワードを設定もしくは変更する。
- バッテリの使用時間を長くするため、パワーマネージメント（PM）機能を使う。

また現在のシステムの設定状態を知るためにシステムコンフィグレーションプログラムを使うこともできます。システムコンフィグレーションを終了させるときには設定された内容をシステムに反映させるため、システムはかならずリブートされます。このとき以前にメモリ上に存在していた、すべてのプログラム及びデータは消失しますので御注意ください。

システムコンフィグレーションをスタートさせる

システムコンフィグレーションプログラムはいつもメモリの中に常駐しています。これをスタートさせるにはＤＯＳプロンプト（つまりアプリケーションプログラムや、Ｗｉｎｄｏｗｓの実行中ではありません。）にて＜Ｃｔｒｌ＞＋＜Ａｌｔ＞＋＜Ｓ＞を押します。システムコンフィグレーションメニューが以下のように現われます。

このメニューは一番上の行に示されるような各サブメニューにその目的に応じて別れています。

```
 Standard   Preferences   VGA    Memory   PowerMgmt   Defaults   Exit
 ---------SystemSoft SCU. Copyright 1983-1993 SystemSoft Corp. ---------
                      06/09/1993          12:00:00

 ------Memory--------------------     ------Peripherals-----------------
 Base Memory            640KB         COM Port A          COM1(3F8h)
 Extended Memory       7168KB         COM Port B          COM2(2F8h)
 Shadow Memory          128KB         LPT Port Address    LPT1(378H)
 Reserved Memory        256KB         Video Display       VGA Display
 Total Memory          8192KB         Boot Speed          Fast Clock
                                      Coprocessor               None

 ------Drives------------------------------------------------------------
   Diskette Drive A     1.44MB

                  Type   Cyls   Heads   SPT   LZone   Precomp   Size
   Hard Disk 1    Auto   980    10      34    0       0         162

                  ESC to exit - F10 to save changes
```

注意
それぞれの機種のバージョンによりハードディスクの容量が変更になることがございますので、上記のハードディスク容量等の表記とは異なる場合がございます。

* Ｓｔａｎｄａｒｄ　（スタンダードサブメニュー）
* Ｐｒｅｆｅｒｅｎｃｅｓ　（プリファレンスサブメニュー）
* ＶＧＡ　（ＶＧＡサブメニュー）
* Ｍｅｍｏｒｙ　（メモリサブメニュー）
* Ｐｏｗｅｒ　Ｍａｎａｇｅｍｅｎｔ　（パワーマネージメントサブメニュー）
* Ｄｅｆａｕｌｔｓ　（デフォルトサブメニュー）
* Ｅｘｉｔ　（終了）

現在の設定の状況が一覧となって画面に表示されています。それぞれのサブメニューはプルダウン式に表示されます。

これらのサブメニューは左右のカーサ移動キーにより、それぞれ選択することができます。設定したい項目のサブメニューに移動し、今度は上下のカーサ移動キーを押すことによって、それぞれのサブメニューの中の各項目を選択します。また＜Ｅｓｃ＞を押すことにより、終了サブメニューに移動することができます。Ｊ２ＤＸ２／５０ＣｉとＪ２ＤＸ４／１００ＣｉはＣｏｐｒｏｃｅｓｓｏｒの状態はＩｎｓｔａｌｌｅｄになっています。

１　Ｓｔａｎｄａｒｄ　（スタンダードサブメニュー）

このサブメニューには以下の設定項目があります。設定内容の変更を行う上下カーサ移動キーを押して希望の項目に箱型カーソルを移動させ＜Ｅｎｔｅｒ＞をタイプします。

1) Ｄａｔｅ

カレンダの日付を変更します。表示されているのが現在設定されている日付です。変更の必要があれば、左右カーサ移動キーを使って変更したい月、日、年のところへカーサを移動し、数字キーを使って希望する日付を入力してください。 数字は月／日／年の順番に並んでいます。入力が終わったら、＜Ｅｎｔｅｒ＞を押します。変更せずに元へ戻る時には＜Ｅｓｃ＞を押します。

2) Ｔｉｍｅ

時計の時刻を変更します。表示されているのが現在設定されている時刻です。変更の必要があれば、左右カーサ移動キーを使って変更したい時、分、秒のところへカーサを移動し、数字キーを使って希望する時刻を入力してください。数字は時／分／秒の順番に並んでいます。入力が終わったら、＜Ｅｎｔｅｒ＞を押します。変更せずに元へ戻る時には＜Ｅｓｃ＞を押します。

3) ＣＯＭ　ＰｏｒｔＡ

コンピュータの背面にある、シリアルポートコネクタのポート設定を行うことができます。通常はＣＯＭ１（３Ｆ８ｈ）に設定しておきます。使用されるアプリケーションプログラムの都合などにより、このポート設定を変更する時には上下カーサ移動キーを使用して、ＣＯＭ１からＣＯＭ４まで設定を変更することができます。なお、シリアルポートをコンピュータ上から見えない設定にするときにはＤｉｓａｂｌｅを選択してください。選択を完了したら、＜Ｅｎｔｅｒ＞を押してください。変更せずに元へ戻る時には＜Ｅｓｃ＞を押します。デフォルト設定ではＣＯＭ１になります。

4) ＣＯＭ　ＰｏｒｔＢ

ＭＴＢ（マイクロトラックボール）の使用しているシリアルポートのポート設定を行うことができます。特に必要のない限り、ＣＯＭ２（２Ｆ８ｈ）に設定しておきます。このポート設定を変更する時には上下カーサ移動キーを使用して、ＣＯＭ１からＣＯＭ４まで設定を変更することができます。なお、外部にマウスを接続する場合はＭＴＢを動作させないようにするため、Ｄｉｓａｂｌｅを選択してください。選択を完了したら、＜Ｅｎｔｅｒ＞を押してください。変更せずに元へ戻る時には＜Ｅｓｃ＞を押します。デフォルト設定ではＣＯＭ２になります。

ＣＯＭ　Ｐｏｒｔ　ＡとＢで同じポート設定を選択することはできません。

5) ＬＰＴ　Ｐｏｒｔ　Ａｄｄｒｅｓｓ

プリンタポートのポート設定を行うことができます。特に必要のない限り、ＬＰＴ１（３７８ｈ）にしておきます。 使用するプログラムの都合により、このポート設定を変更する時には上下カーサ移動キーを使用して、ＬＰＴ１からＬＰＴ３まで設定を変更することができます。コンピュータからプリンタポートを見えないようにしたい場合はＤｉｓａｂｌｅを選択してください。選択を完了したら、＜Ｅｎｔｅｒ＞を押してください。変更せずに元へ戻る時には＜Ｅｓｃ＞を押します。デフォルト設定ではＬＰＴ１になります。

6) Ｄｉｓｋｅｔｔｅ　Ｄｒｉｖｅ

フロッピーディスクドライブの設定を行います。Ｊ２ＤＸ２／５０ＣｉとＪ２ＤＸ４／１００Ｃｉは3モード（１．４４ＭＢ／１．２ＭＢ／７２０ＫＢ）に対応しています、この設定Ｄｉｓｋｅｔｔｅ　Ｄｒｉｖｅ　Ａは目的の容量にあった設定を行います。その他の設定を行うとシステムは正しく動作することができませんので注意してください。

7) Ｈａｒｄ　Ｄｉｓｋ　１

ハードディスクドライブの設定を行います。ソーテック***WinBook***コンピュータではこの設定は常にＨａｒｄ Ｄｉｓｋ １は"Ａｕｔｏ"にしておかなくてはなりません。その他の設定を行うとシステムは正しく動作することができませんのでご注意ください。"Ａｕｔｏ"を選択することで ***WinBook***はＨＤＤの容量を自動的に認識しシステムを立ちあげますがＨＤＤを交換した場合は一度システムコンフィグレーションをスタートさせＨＤＤの容量を確認後終了させる必要があります。デフォルト設定では"Ａｕｔｏ"になっています。なお、特別な設定を行いたい場合は上下カーサ移動キーを使用してその設定を選択し、＜Ｅｎｔｅｒ＞を押してください。変更しない場合には＜Ｅｓｃ＞を押します。

8) Ｖｉｄｅｏ Ｄｉｓｐｌａｙ

システムのビデオディスプレイが何であるかを設定します。ソーテック***WinBook***コンピュータはＶＧＡディスプレイ装置が組み込まれていますので、この設定は常にＶＧＡ ｄｉｓｐｌａｙにしておく必要があります。デフォルト設定でＶＧＡ ｄｉｓｐｌａｙになります。

2 Ｐｒｅｆｅｒｅｎｃｅｓ（プリファレンスサブメニュー）

このサブメニューには以下の設定項目があります。設定内容の変更を行う上下カーサ移動キーを押して希望の項目に反転カーソルを移動させ＜Ｅｎｔｅｒ＞をタイプします。

1) Ｑｕｉｃｋ Ｂｏｏｔ

リセット時に行われるメモリテストを行わずにブートを行うように設定します。これにより、より早いシステムの立ち上げを行うことができます。チェックマーク"Γ"がＱｕｉｃｋ Ｂｏｏｔの表示の左側に表示されている時にこの機能が働きます。ここでもう一度＜Ｅｎｔｅｒ＞を押せばこの機能を解除することができます。デフォルトではこの機能は禁止されています。

2) ＮＵＭロック

システムが立ち上がったときに自動的にＮＵＭロックをオンすることができます。これによりシステムが立ち上がった時にエンベデッドキーパッドが数字キー状態になります。チェックマーク"Γ"がＮｕｍ Ｌｏｃｋの文字列の右側にあらわれている時に、この機能が働きます。ここでもう一度＜Ｅｎｔｅｒ＞を押せばこの機能を解除することができます。デフォルトではkの機能は禁止されています。

3) Ｂｏｏｔ Ｓｐｅｅｄ

システムの立ち上がり時のＣＰＵの速度を選択することができます。通常は"Ｆａｓｔ Ｃｌｏｃｋ"つまり速い状態に設定しておきます。バッテリ使用時間を長くしたいときなどＣＰＵの速度を遅くしたい時には"Ｓｌｏｗ Ｃｌｏｃｋ"を選択します。上下カーサ移動キーを押して希望の設定を選択し、＜Ｅｎｔｅｒ＞を押します。設定を行わない場合は＜Ｅｓｃ＞を押します。

4) Ｔｙｐｅｍａｔｉｃ Ｒａｔｅ

キーボードのキーを押しつづけた時のオートリピートの間隔を設定します。３０文字／秒（３０ＣＰＳ）から２文字／秒（２ＣＰＳ）までを選択できます。好みの設定を行ってください。カーサ上下移動キーを押して選択し、＜Ｅｎｔｅｒ＞を押します。設定を行わない場合は＜Ｅｓｃ＞を押します。デフォルトでは１０ＣＰＳ（１０文字／秒）の速度に設定されています。

5) Ｔｙｐｅｍａｔｉｃ Ｄｅｌａｙ

キーボードのキーを押してからオートリピートの始まる迄の遅延時間を設定します。２５０ミリ秒（２５０ｍｓ）から１０００ミリ秒（１０００ｍｓ）までを選択できます。好みの設定を行ってください。カーサ上下移動キーを押して選択し、＜Ｅｎｔｅｒ＞を押します。設定を行わない場合は＜Ｅｓｃ＞を押します。デフォルトでは５００ｍｓ（０．５秒）の時間設定になっています。

6) Ｂｏｏｔ　Ｐａｓｓｗｏｒｄ

システムをスタートさせた時に機密保護のためにパスワードを設定することができます。この項目で＜Ｅｎｔｅｒ＞を押すとパスワードを入力するように聞いてきます。４文字から８文字の長さでパスワードを入力します。パスワードに有効なのは英、数字キーだけです。２回同じパスワードを入力することによりそのパスワードが受け入れられます。パスワードは何かにメモするなどして、忘れないようにしてください。次回のシステムの立ち上がり時に以下のよう画面でシステムはパスワードの入力を要求してきます。正しいパスワードをタイプしてください。間違った入力を行った場合は３回まで再要求を行います。３回とも間違えた場合にはシステムはリブートします。

Ｅｎｔｅｒ ｙｏｕｒ ＢＯＯＴ ＰＡＳＳＷＯＲＤ ＿＿＿＿＿＿＿

もし、パスワードを忘れた場合にはソーテックテクニカルセンタまでご連絡ください。

7) ＳＣＵ　Ｐａｓｓｗｏｒｄ

システムコンフィグレーションメニューをスタートさせる時にパスワードを設定することができます。この項目で＜Ｅｎｔｅｒ＞を押すとパスワードを入力するように聞いてきます。４文字から８文字の長さでパスワードを押します。パスワードに有効なのは英、数字キーだけです。２回同じパスワードを入力することにより、そのパスワードが受け入れられます。パスワードは何かにメモするなどして、忘れないようにしてください。次回のシステムコンフィグレーションのスタート時に以下の入力画面があらわれますのでここで正しいパスワードをタイプしてください。間違った入力を行った場合は３回まで再要求を行います。３回とも間違えた場合にはシステムはリブートします。

Ｅｎｔｅｒ ｙｏｕｒ ＳＥＴＵＰ ＰＡＳＳＷＯＲＤ＿＿＿＿＿＿＿

8) Ｆｉｒｓｔ　Ｂｏｏｔ

システムはフロッピーディスク、ハードディスクまたはＩＣカードのいずれからもブートさせることが可能です（ただし装着メディアが正しくブート出来るように書き込まれていることが必要です）。 通常はドライブＡである、フロッピーディスクを読みに行き、もしメディアが装着されていなければハードディスクからブートし、ハードディスクがなければＩＣカードからブートを行います。上下カーサ移動キーを押してどのデバイスからブートを最初に行うかを設定します。選択を決定したら、＜Ｅｎｔｅｒ＞を押します。設定を行わない時には＜Ｅｓｃ＞を押します。デフォルトはドライブＡつまりフロッピーディスクから最初にブートを行うようになっています。

3　ＶＧＡ　（ＶＧＡサブメニュー）

このサブメニューには以下の設定項目があります。設定内容の変更を行う上下カーサ移動キーを押して希望の項目に反転カーソルを移動させ＜Ｅｎｔｅｒ＞をタイプします。

1）Ｄｉｓｐｌａｙ　Ｍｏｄｅ

外部ＣＲＴとＬＣＤの表示をどのように行うかを設定します。ＢＯＴＨを選択するとＣＲＴ、ＬＣＤ同時に表示（サイマルディスプレイ）し、ＬＣＤを選択するとＬＣＤにのみ表示します。ＣＲＴを選択するとＣＲＴにのみ表示します。上下カーサ移動キーを押して選択を決定したら、＜Ｅｎｔｅｒ＞を押します。設定を行わない時には＜Ｅｓｃ＞を押してください。デフォルトはＬＣＤになっています。

2）ＬＣＤ　Ａｕｔｏｍａｐ Ｄｉｓｐｌａｙ

白黒ＬＣＤの表示（２５６色のグラフィックス表示）を見易くする状態を設定します。この項目で＜Ｅｎｔｅｒ＞を押し、上下カーサ移動キーでＥｎａｂｌｅ（オートマップ設定オン）かディスエーブル（オートマップ設定オフ）選択し、＜Ｅｎｔｅｒ＞を押します。デフォルトはＥｎａｂｌｅ（オートマップ設定オン）です。尚、Ｊ２ＤＸ２／５０ＣｉとＪ２ＤＸ４／１００Ｃｉには表示されません。

3）Ｔｅｘｔ Ｍｏｄｅ

テキストモードの時のＬＣＤ画面の表示のしかたを設定します。Ｎｏｒｍａｌに設定するとＣＲＴで一般的に表示されるものと同じように表示されます。Ｒｅｖｅｒｓｅに設定するとＣＲＴ表示とは逆転した（白／黒逆転つまりネガティブ）表示になります。英語モードのテキスト表示の時にこの設定は有効になり、Ｒｅｖｅｒｓｅで使用すると画面を見易くすることができます。上下カーサ移動キーを押して選択を決定したら、＜Ｅｎｔｅｒ＞を押します。設定を行わない時には＜Ｅｓｃ＞を押してください。デフォルトはＲｅｖｅｒｓｅ（ＣＲＴと逆転）です。なお、この設定は白黒ＬＣＤにのみ有効でカラーＬＣＤ、ＣＲＴには影響しません。尚、Ｊ２ＤＸ２／５０ＣｉとＪ２ＤＸ４／１００Ｃｉには表示されません。

4）Ｇｒａｐｈｉｃｓ Ｍｏｄｅ

グラフィクスモードの時のＬＣＤ画面の表示のしかたを設定します。Ｎｏｒｍａｌに設定するとＣＲＴで一般的に表示されるものと同じ様に表示されます。Ｒｅｖｅｒｓｅに設定するとＣＲＴ表示とは逆転した（白／黒逆転つまりネガティブ）表示になります。日本語ＭＳ－ＤＯＳの日本語モード、Ｗｉｎｄｏｗｓの画面はすべてグラフィックスモードを使用していますのでこの設定が影響を受けます。上下カーサ移動キーを押して選択を決定したら、＜Ｅｎｔｅｒ＞を押します。設定を行わない時には＜Ｅｓｃ＞を押してください。デフォルトはＮｏｒｍａｌ（ＣＲＴと同じ）です。なお、この設定は白黒ＬＣＤにのみ有効でカラーＬＣＤ、ＣＲＴには影響しません。Ｊ２ＤＸ２／５０ＣｉとＪ２ＤＸ４／１００Ｃｉには表示されません。

4 Ｍｅｍｏｒｙ　（メモリサブメニュー）

このサブメニューには以下の設定項目があります。設定内容の変更を行う上下カーサ移動キーを押して希望の項目に反転カーソルを移動させ＜Ｅｎｔｅｒ＞をタイプします。

1）Ｓｈａｄｏｗ　Ｓｙｓｔｅｍ　ＢＩＯＳ

システムＢＩＯＳＲＯＭの内容をＲＡＭにコピーして実行する状態をＳｈａｄｏｗ（シャドウ）といい、システムの性能をより速くすることができます。チェックマーク”Γ”がＳｈａｄｏｗ　Ｓｙｓｔｅｍ　ＢＩＯＳの表示の左側に表示されている時にこの機能が働きます。ここでもう一度＜Ｅｎｔｅｒ＞を押せばこの機能を解除することができます。デフォルトでこの機能は生かされています。

2）Ｓｈａｄｏｗ　Ｖｉｄｅｏ　ＢＩＯＳ

ビデオＢＩＯＳＲＯＭの内容をＲＡＭにコピーして実行する状態をＳｈａｄｏｗ（シャドウ）といい、システムの処理スピードをより速くすることができます。チェックマーク”√”がＳｈａｄｏｗ　Ｖｉｄｅｏ　ＢＩＯＳの表示の左側に表示されている時にこの機能が働きます。ここでもう一度＜Ｅｎｔｅｒ＞を押せばこの機能を解除することができます。デフォルトでこの機能は生かされています。

3) Ｃａｃｈｅ　Ｅｎａｂｌｅ

ＣＰＵ内部のキャッシュメモリの動作を行うかどうかを設定します。特に必要の無い限りこれはＣａｃｈｅ　Ｅｎａｂｌｅの状態で使用してください。キャッシュを禁止するとシステムの処理スピードは遅くなります。デフォルトでキャッシュ機能は生かされています。

5　Ｐｏｗｅｒ　Ｍａｎａｇｅｍｅｎｔ　（パワーマネージメントサブメニュー）

この項目を選択して＜Ｅｎｔｅｒ＞を押すか、上下カーサ移動キーを押すとパワーマネージメントメニュー（ＰＭメニュー）をスタートさせることができます。詳しい内容はこの先の”パワーマネージメントメニューをスタートさせる”の項目をお読みください。ＰＭメニューを終了させるとここに戻ってきます。

6　Ｄｅｆａｕｌｔｓ（デフォルトサブメニュー）

この項目を選択して＜Ｅｎｔｅｒ＞を押すか、上下カーサ移動キーを押すとシステムコンフィグレーションのデフォルト値を設定することができます。各設定項目の内容は以下のとおりです。

Ｓｔａｎｄａｒｄ	デフォルト設定値	説明
Date	No effect	デフォルトはありません。
Time	No effect	デフォルトはありません。
COM PORT A	COM1(3F8h)	シリアルポートはＣＯＭ１設定
COM PORT B	COM2(2F8h)	ＭＴＢはＣＯＭ２設定
LPT Port Address	LPT1(378h)	プリンタポートはＬＰＴ１設定
Diskette Drive	1.44MB	ＦＤＤは１．４４ＭＢ
Hard Disk 1	Auto	自動設定
Video Display	VGA Display	ＶＧＡディスプレイ設定

Ｐｒｅｆｅｒｅｎｃｅ	デフォルト設定値	説明
Quick Boot	Not Quick Boot	メモリテストを実行します。
Num Lock	Not Num Lock	ＮＵＭロック　オフ
Boot Speed	High	速いスピード
Typematic Rate	10 CPS	１０文字／秒
Typematic Delay	500mS	０．５秒
Boot Password	Disabled	なし
SCU Password	Disabled	なし
First Boot	Drive A	フロッピーから最初にブート

ＶＧＡ	デフォルト設定値	説明
Display Mode	LCD	ＬＣＤにのみ表示
LCD Automap Display	Enabled	白黒ＬＣＤの階調を自動調整
Text Mode	Reverse	ＣＲＴと逆転（ネガ）
Graphics Mode	Normal	ＣＲＴと同じ

Ｍｅｍｏｒｙ	デフォルト設定値	説明
Shadow System BIOS	Enable	シャドウシステムＢＩＯＳオン
Shadow Video BIOS	Enable	シャドウビデオＢＩＯＳオン
Cache Enable	Enable	ＣＰＵキャッシュオン

７ Ｅｘｉｔ （終了）

この項目を選択して上下カーサ移動キーを押すか、＜Ｅｎｔｅｒ＞を押すと終了サブメニューが表示されます。設定内容を変更していなければ以下のような表示になり、＜Ｅｓｃ＞を押せばシステムコンフィグレーションメニューを終了します。その他のキーを押せば設定の変更を継続することができます。

```
ESC to exit now

Any other key to continue
```

もし設定を変更している場合は以下のような表示になります。設定内容をリチウム電池でバックアップされたメモリに記憶させて終了させるためには＜Ｅｎｔｅｒ＞を押します。システムをメモリに書き込んでからシステムコンフィグレーションメニューを終了させます。設定を変更しないで終了する場合は＜Ｅｓｃ＞を押してください。変更を継続する場合には何かその他のキーを押してください。

```
Do you wish to save your changes?

ESC to exit - ENTER to save and exit

Any other key to continue
```

なお、その他のサブメニューを選択中に＜Ｅｓｃ＞を押すことで終了サブメニューに移動することが出来ます。また＜Ｆ１０＞を押すことでメモリに設定内容を記憶させることができます。

パワーマネージメントメニューをスタートさせる

パワーマネージメントメニュープログラムはいつもメモリの中に常駐しています。これをスタートさせるには＜Ｆｎ＞＋＜Ｅｓｃ＞を押します。パワーマネージメントメニュー（ＰＭメニュー）が以下のように現われます。

このメニューは一番上の行に示されるような各サブメニューにその目的に応じて別れています。

```
 Controls      System       Device       Deafaults       Exit
 ────────── SystemSoft MAXIMIZER(tm) for 486/86C268 Version ──────────
          Copyright 1990-1993 SystemSoft Corp. All Rights Reserved.

 ─────Controls──────────────────     ──────System Options──────────────
 Power Saving:           Always      Cpu Idle:                Disable
 Power Switch:   Suspend/Resume      Global Standby:          Disable
 Battery Low:         Warn Only      Auto Suspend:            Disable
 Modem Ring Resume:     Disable      Video Monitoring:        Disable
 Alarm Resume:          Disable
 Cover Switch:          Suspend

      Devices
 Video:          Always On
 HardDisk:       Always On

             ESC to exit - F10 to save changes
```

- Ｃｏｎｔｒｏｌｓ（コントロールサブメニュー）
- Ｓｙｓｔｅｍ（システムサブメニュー）
- Ｄｅｖｉｃｅ（デバイスサブメニュー）
- Ｄｅｆａｕｌｔｓ（デフォルトサブメニュー）

現在の設定の状況が一覧となって画面に表示されています。それぞれのサブメニューはプルダウン式に表示されます。

これらのサブメニューは左右のカーサ移動キーにより、それぞれ選択することができます。設定したい項目のサブメニューに移動し、今度は上下のカーサ移動キーを押すことによって、それぞれのサブメニューの中の各項目を選択します。 この時＜Ｅｓｃ＞を押すと終了のサブメニューに移ることが できます。

１ Ｃｏｎｔｒｏｌｓ（コントロールサブメニュー）

このサブメニューには以下の設定項目があります。設定内容の変更を行う上下カーサ移動キーを押して希望の項目に箱型カーソルを移動させ、＜Ｅｎｔｅｒ＞を押します。

１）Ｐｏｗｅｒ Ｓａｖｉｎｇｓ（パワーセーブ）

システムのパワーセーブ機能をどのような時に有効にするかを設定します。Ａｌｗａｙｓを設定すると、バッテリパック・ACアダプタどちらの電源を使用していてもパワーセーブ機能はいつも有効になります。Ｂａｔｔｅｒｙを設定するとバッテリパックを使用しているときのみ、パワーセーブ機能が有効になります。Ｄｉｓａｂｌｅを設定すると、パワーセーブ機能は無効になります。上下カーサ移動キーを押して項目を設定したのち、＜Ｅｎｔｅｒ＞を押します。設定を行わない時には＜Ｅｓｃ＞を押します。デフォルト設定はＡｌｗａｙｓです。

2) Ｐｏｗｅｒ Ｓｗｉｔｃｈ（電源スイッチ）

電源スイッチの機能を切り替えます。電源スイッチを押すことによりシステムをパワーオン・オフさせるか、サスペンド・レジュームさせるかを選択します。Ｏｎ／Ｏｆｆを選択すると電源スイッチはオン・オフ機能になります。Ｓｕｓｐｅｎｄ／Ｒｅｓｕｍｅを選択すると電源スイッチはサスペンド・レジューム機能になります。上下カーサ移動キーを押して項目を選択した後、＜Ｅｎｔｅｒ＞を押します。設定を行わない時には＜Ｅｓｃ＞を押します。デフォルト設定はＳｕｓｐｅｎｄ／Ｒｅｓｕｍｅ（サスペンド・レジューム）です。

3) Ｂａｔｔｅｒｙ Ｌｏｗ （バッテリ容量低下）

バッテリ容量が少なくなった時にシステムをどのように動作させるかを選択します。システムは電池容量が少なくなったとき自動的に電源ＬＥＤの色を緑からオレンジに変化させ、また消費電力を節約するため、ＣＰＵの動作速度を低下させます。このとき、スピーカからは１６秒毎にピッと音が発生します。Ｗａｒｎ Ｏｎｌｙを選択すると、システムは動作出来る限界点にてサスペンドします。Ｓｕｓｐｅｎｄを選択すると、ある程度余裕を持ってサスペンドに入ります。チェックマーク”√”がＢａｔｔｅｒｙ Ｌｏｗの表示の左側に表示されている時はＳｕｓｐｅｎｄ（サスペンド）になり、チェックマーク”√”が無い場合はＷａｒｎ Ｏｎｌｙ（警告のみ）となります。ここでもう一度＜Ｅｎｔｅｒ＞を押せばこの機能を切り替えることができます。デフォルトではＷａｒｎ Ｏｎｌｙ（警告のみ）となっています。なおメニュー画面のＣｏｎｔｒｏｌｓと表示された項目のＢａｔｔｅｒｙ Ｌｏｗの項目でもその設定を確認することができます。

警告
ローバッテリ状態でサスペンドに入ったときはそのままの状態からレジュームさせないでください。システムにはレジュームさせるだけの容量は残っていません。必ずACアダプタを装着してから、レジュームさせてください。

4) Ｍｏｄｅｍ Ｒｉｎｇ Ｒｅｓｕｍｅ（モデム電話呼び出しによるレジューム）

ＩＣカードスロットに装着されたモデムカードを使用したときに選択出来るオプションです。チェックマーク”√”がＭｏｄｅｍ Ｒｉｎｇ Ｒｅｓｕｍｅ表示の左側にあらわれている時はこの機能が生かされています。ここで＜Ｅｎｔｅｒ＞を押せば機能の選択が可能です。モデムを使用し、外部から電話呼び出し（Ｒｉｎｇ）があったときに自動的にレジュームさせることができます。デフォルトではこの機能は禁止されています。

5) Ａｌａｒｍ Ｒｅｓｕｍｅ（時刻設定によるレジューム）

あらかじめ設定した時刻にシステムをレジュームさせることが可能です。この機能を設定するにはアラーム時刻の設定が必要です。この項目にて＜Ｅｎｔｅｒ＞を押すと以下のような表示が出てきてアラームレジュームを行うかを聞いてきます。設定を行うなら上下カーサ移動キーを押して表示がＥｎａｂｌｅ（動作許可）にして、＜Ｅｎｔｅｒ＞を押します。逆にアラームレジュームを禁止したいならここで表示がＤｉｓａｂｌｅ（禁止）となるようにして、＜Ｅｎｔｅｒ＞を押します。設定がＥｎａｂｌｅになっているとチェックマーク”√”がＡｌａｒｍ Ｒｅｓｕｍｅ表示の左側にあらわれます。デフォルトでこの機能は禁止されています。

```
Use ARROWS to Enalbe/Disable Alarm

            Enable
```

このあと以下のようなアラーム時刻設定を行うための表示がでてきますので希望の時刻に設定を変更します。時間・分のカーソルの位置を変更するには左右カーサ移動キーを、それぞれの値を変更するには上下カーサ移動キーを使用してください。変更が終わったら＜Ｅｎｔｅｒ＞を押してください。変更しない時には＜Ｅｓｃ＞を押してください。

```
Use ARROWS to set the Alarm time

            04:50
```

6) Ｃｏｖｅｒ Ｓｗｉｔｃｈ（ＬＣＤ装置を閉じた時の設定）

ＬＣＤを閉じた時のコンピュータの動作を選択することが出来ます。ＬＣＤを閉じたら自動的にサスペンド状態になる設定と、ＬＣＤを閉じてもコンピュータはそのまま動作を続ける設定です。通常はサスペンド設定で御使用ください。動作をしつづける様に設定することでＬＣＤを閉じて、外部キーボード、外部ＣＲＴを接続して***WinBook***をデスクトップコンピュータの様に使うことが出来るようになります。この項目で＜Ｅｎｔｅｒ＞を押すとＳｕｓｐｅｎｄまたはＬＣＤ Ｏｎ／Ｏｆｆの選択を上下カーサー移動キーで行うことができます。デフォルトはＳｕｓｐｅｎｄです。

> 注意
> ＬＣＤを閉じた状態で使用される時は内部の熱がこもらないように風通の良いところにおいて御使用ください。内部温度が上昇しすぎた場合には過熱保護装置が機能し、システムの動作スピードが遅くなることがあります。このような時にはシステムをオフして温度が低下するまで御使用にならないでください。

> 注意
> ＬＣＤを閉じたまま御使用になった後、温度が下がらないうちにＬＣＤ装置を開けて使用された場合、ＬＣＤ上に表示のムラが現れる場合がありますがこれは故障ではありません。しばらくたてばこのムラは無くなります。

7) Ｈｉｇｈ Ｓｐｅｅｄ Ｃｏｍ Ｐｏｒｔ

シリアルポートにて９６００ＢＰＳ以上の高速なモデム等をお使いになる場合又は９６００ＢＰＳ以上の高速なＦＡＸ／ＭＯＤＥＭ ＩＣカードをお使いになる場合はこの項目で＜Ｅｎｔｅｒ＞を押し設定を変更してください。チェックマーク”√”がＨｉｇｈ Ｓｐｅｅｄ Ｃｏｍ Ｐｏｒｔの表示の左側にあらわれた場合は９６００ＢＰＳ以上の高速転送が可能です。チェックマークが無い場合は９６００ＢＰＳ以上の高速シリアル転送中においてデータが正しく転送出来ない場合があります。デフォルトでは消費電力削減の為チェックマークなしにしています。

8) Ｂｅｅｐｅｒ Ｏｎ／Ｏｆｆ（スピーカのオン・オフ）

スピーカから出る音を禁止します。この項目で＜Ｅｎｔｅｒ＞を押すと設定の変更を行うことができます。チェックマーク”Γ”がＢｅｅｐｅｒ　Ｏｎ／Ｏｆｆの表示の左側にあらわれたときはスピーカから音が出る状態（オン）になります。デフォルトでスピーカの音はオンになっています。

2 Ｓｙｓｔｅｍ（システムサブメニュー）

1) ＣＰＵ　Ｉｄｌｅ（ＣＰＵのアイドル設定）

システムが一定時間稼動していないと判断した場合に自動的にＣＰＵのクロックスピードを遅くするための機能です。この稼動していない時間リミットの設定をここで行うことができます。この項目で＜Ｅｎｔｅｒ＞を押すと４秒から１６秒までの選択を上下カーサ移動キーにて行うことができます。この機能を使用しないときにはＤｉｓａｂｌｅを選択してください。希望の時間設定の位置で＜Ｅｎｔｅｒ＞を押すと設定されます。設定を行わない時には＜Ｅｓｃ＞を押してください。デフォルトはＤｉｓａｂｌｅ（禁止）です。

アイドル状態（クロックの下がった状態）でキーボードを押すなどアクションを起こすとＣＰＵのスピードは自動的にもとの速度に復帰します。

注意
メモリの中だけで計算を行うようなプログラムを実行している場合に、この設定を行うと稼動状態の検出が正しくできないことがあり、ＣＰＵのスピードが落ちてしまいます。このような時にはＣＰＵ　Ｉｄｌｅ設定はＤｉｓａｂｌｅにしてご使用ください。

2) Ｇｌｏｂａｌ　Ｓｔａｎｄｂｙ（グローバルスタンバイ）

システムが一定時間稼動していないと判断した場合に自動的にシステムの各部品の電源を落としてしまうための機能です。このときシステムは動作を停止し、表示（ＬＣＤとＣＲＴ）はしなくなります。

この稼動していない時間リミットの設定をここで行うことができます。この項目で＜Ｅｎｔｅｒ＞を押すと１分から１６分の間での選択を上下カーサ移動キーにて行うことができます。この機能を使用しないときにはＤｉｓａｂｌｅを選択してください。希望の時間設定の位置で＜Ｅｎｔｅｒ＞を押すと設定されます。設定を行わない時には＜Ｅｓｃ＞を押してください。デフォルトはＤｉｓａｂｌｅです。

グローバルスタンバイ状態でキーボードを押すなどアクションを起こすとシステムはグローバルスタンバイに入る以前の状態に復帰します。

注意
メモリの中だけで計算を行うようなプログラムを実行している場合に、この設定を行うと稼動状態の検出が正しくできないことがあり、グローバルスタンバイになってしまうことがあります。このような時にはＧｌｏｂａｌ　Ｓｔａｎｄｂｙ設定はＤｉｓａｂｌｅにしてご使用ください。

3) Ａｕｔｏ　Ｓｕｓｐｅｎｄ（オートサスペンド）

システムが一定時間稼動していないと判断した場合に自動的にシステムをサスペンドさせるための機能です。このときシステムの動作は停止し、表示も消えます。前出のグローバルスタンバイより更に消費電流はすくなくなります。

この稼動していない時間リミットの設定をここで行うことができます。この項目で＜Ｅｎｔｅｒ＞を押すと１分から６０分の間での選択を上下カーサ移動キーにて行うことができます。こ

の機能を使用しないときにはＤｉｓａｂｌｅを選択してください。希望の時間設定の位置で＜Ｅｎｔｅｒ＞を押すと設定されます。設定を行わない時には＜Ｅｓｃ＞を押してください。デフォルトはＤｉｓａｂｌｅです。

サスペンド状態からの復帰（レジューム）はキーボードのキースイッチを押すか、電源スイッチを押すかにより行うことができます（アラームレジューム、モデム電話呼び出しレジュームも設定により可能です）。レジューム動作には数秒を必要とします。

注意
メモリの中だけで計算を行うようなプログラムを実行している場合に、この設定を行うと稼動状態の検出が正しくできないことがあり、サスペンド状態になってしまうことがあります。このような時にはＡｕｔｏ Ｓｕｓｐｅｎｄ設定はＤｉｓａｂｌｅにしてご使用ください。

4) Ｖｉｄｅｏ Ｍｏｎｉｔｏｒｉｎｇ（ビデオモニタリング）

上記３種類のパワーセーブ機能を使用しているときにアプリケーションプログラムによってはこの機能を設定したほうがより効果的にパワーセーブ出来る場合があります。この項目で＜Ｅｎｔｅｒ＞を押し、チェックマーク"√"がＶｉｄｅｏ Ｍｏｎｉｔｏｒｉｎｇ表示の左側にあらわれるとこの機能が生かされています。デフォルトでこの機能は禁止されています。

3 Ｄｅｖｉｃｅ （デバイスサブメニュー）

このサブメニューには以下の設定項目があります。設定内容の変更を行う上下カーサ移動キーを押して希望の項目に箱型カーソルを移動させ、＜Ｅｎｔｅｒ＞を押します。

1) Ｖｉｄｅｏ（ビデオ部）

一定時間キーボードからの入力をしていないと判断した場合に自動的にＬＣＤ・ＣＲＴ表示回路の電源をオフにする機能です。このときシステムの表示は消えますが、動作は継続しています。この項目で＜Ｅｎｔｅｒ＞を押すと１分から１６分までの時間選択を上下カーサ移動キーにて行うことができます。この機能を使用しないときにはＡｌｗａｙｓ Ｏｎを選択します。＜Ｅｎｔｅｒ＞を押すと設定されます。デフォルトでＡｌｗａｙｓ Ｏｎになっています。

2) Ｈａｒｄ ｄｉｓｋ（ハードディスク部）

一定時間キーボードからの入力がないか、ハードディスクの使用がなかったと判断した場合に自動的にＨＤＤの電源をオフにする機能です。このときＨＤＤの電源はオフになりますが他のシステムの動作は継続しています。この項目で＜Ｅｎｔｅｒ＞を押すと１分から１６分までの時間選択を上下カーサ移動キーにて行うことができます。この機能を使用しない時にはＡｌｗａｙｓ Ｏｎを選択します。＜Ｅｎｔｅｒ＞を押すと設定されます。デフォルトでＡｌｗａｙｓ Ｏｎになっています。

4 Ｄｅｆａｕｌｔｓ（デフォルトサブメニュー）

この項目を選択して＜Ｅｎｔｅｒ＞を押すか、上下カーサ移動キーを押すとパワーマネージメントメニューのデフォルト値を設定することができます。各設定項目の内容は以下のとおりです。

Controls	デフォルト設定値	説明
Power Savings	Always	常時パワーセーブを行う
Power Switch	Suspend・Resume	サスペンド・レジュームを行う
Battery Low	Warn Only	バッテリ残量警告のみ
Modem Ring Resume	Disabled	モデム呼び出しによるレジューム禁止

Alarm Resume	Disabled	時刻設定レジューム禁止
Cover Switch	Suspend・Resume	サスペンド・レジュームを行う
Beeper On/Off	On	スピーカ出力オン

System	デフォルト設定値	説明
CPU Idle	Disabled	CPUのスタンバイ機能禁止
Global Standby	Disabled	システム全体のスタンバイ機能禁止
Auto Suspend	Disabled	自動サスペンド禁止
Video Monitoring	Disabled	ビデオメモリアクセス監視機能禁止

Device	デフォルト設定値	説明
Video	Always On	ビデオ回路のパワーセーブ無し
Hard Disk	Always On	ハードディスクのパワーセーブ無し

5 Ｅｘｉｔ（終了サブメニュー）

この項目を選択して上下カーサ移動キーを押すか、＜Ｅｎｔｅｒ＞を押すと終了サブメニューが表示されます。設定内容を変更していなければ以下のような表示になり、＜Ｅｓｃ＞を押せばパワーマネージメントメニューを終了します。その他のキーを押せば設定の変更を継続することができます。

```
ＥＳＣ ｔｏ ｅｘｉｔ ｎｏｗ

Ａｎｙ ｏｔｈｅｒ ｋｅｙ ｔｏ ｃｏｎｔｉｎｕｅ
```

もし設定を変更している場合は以下のような表示になります。設定内容をリチウム電池でバックアップされたメモリに記憶させて終了させるためには＜Ｅｎｔｅｒ＞を押します。システムをメモリに書き込んでからパワーマネージメントメニューを終了させます。設定を変更しないで終了する場合は＜Ｅｓｃ＞を押してください。変更を継続する場合には何かその他のキーを押してください。パワーマネージメントメニューを抜け出すと呼び出す前の状態に戻ります。

```
Ｄｏ ｙｏｕ ｗｉｓｈ ｔｏ ｓａｖｅ ｙｏｕｒ ｃｈａｎｇｅｓ？

ＥＳＣ ｔｏ ｅｘｉｔ － ENTER ｔｏ ｓａｖｅ ａｎｄ ｅｘｉｔ

Ａｎｙ ｏｔｈｅｒ ｋｅｙ ｔｏ ｃｏｎｔｉｎｕｅ
```

なお、その他のサブメニューを選択中に＜Ｅｓｃ＞を押すことで終了サブメニューに移動することができます。またＦ１０キーを押すことでメモリに設定内容を記憶させることができます。

チャプタ 6　オプションデバイスを装着する

以下の各オプションデバイスがソーテック***WinBook***コンピュータに使用することができます。

- 拡張ＲＡＭモジュール
- 外部キーボード・ＰＳ／２マウス
- 外部ＣＲＴモニタ
- ＰＣＭＣＩＡカード

このチャプタでは

上記のオプションデバイスの装着方法について説明しています。

拡張ＲＡＭモジュール

ソーテック***WinBook***コンピュータは４ＭＢのシステムメモリがコンピュータのマザーボード上に装着され、その上４ＭＢ拡張ＲＡＭモジュールが標準搭載され合計８ＭＢのメモリにて出荷されてきています。この他に４ＭＢのＲＡＭカードを１枚または、１６ＭＢＲＡＭカードを標準搭載されてる４ＭＢＲＡＭカードの換りに１枚装着でき、最大２０ＭＢのメモリを得ることができます。

■拡張ＲＡＭモジュールを装着する

> **警告**
> ＲＡＭモジュールを装着する前に必ずコンピュータをオフにしてください。またサスペンドレジューム設定になっていてはいけません。ＰＭメニューにて電源スイッチの機能をオン・オフに設定し、システムの電源をオフにしてください。

> **警告**
> ＲＡＭモジュールは５Ｖタイプと３．３Ｖタイプがあります。Ｊ２ＤＸ２／５０ＣｉとＪ２ＤＸ４／１００Ｃｉは３．３Ｖタイプを使用してください。誤ってタイプを間違えた場合は、動作を保証できません。

拡張ＲＡＭモジュールを装着するには

1) 拡張ＲＡＭエリアのふたを開けます。

2) モジュールを注意深く一枚ずつ装着します。

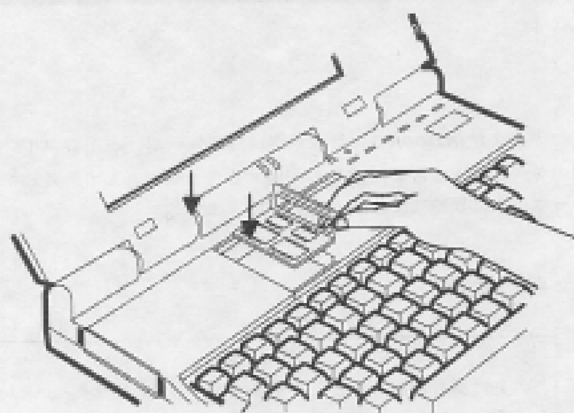
標準では４ＭＢのシステムメモリ上に４ＭＢ拡張ＲＡＭモジュールが１枚装着され、合計８ＭＢメモリにて出荷されています。

４ＭＢ拡張ＲＡＭモジュールを追加する場合は、その上にもう一枚追加して合計１２ＭＢまで増設できます。

１６ＭＢ拡張ＲＡＭモジュールを追加する場合は、すでに装着済みの４ＭＢ拡張ＲＡＭモジュール１枚と交換して最大２０ＭＢまで増設できます。

> **警告**
> １６ＭＢ拡張ＲＡＭモジュールを増設する場合は必ず４ＭＢ拡張ＲＡＭモジュールを取り外してください。もし、そのまま４ＭＢ拡張ＲＡＭモジュールの上に１６ＭＢ拡張ＲＡＭモジュールを重ねて装着した場合は、動作しなくなり、故障の原因になります。

3) 拡張ＲＡMエリアのふたを閉めます。



拡張ＲＡMモジュールの装着を行ったあと最初のパワーオンを行ったときにはシステムの以前に記憶していたＲＡMの容量と現在の容量が一致しないため、画面にエラーメッセージが表示されます。このとき、＜Ｃｔｒｌ＞＋＜Ａｌｔ＞＋＜Ｓ＞を押してシステムコンフィグレーションプログラムを呼び出してください。システムは自動的に現在のＲＡM容量を読み込み、設定を行いますので、ここで＜Ｆ１０＞を押してその新しいＲＡM容量設定を記憶させます。詳しい内容はチャプタ５の説明をお読みください。

外部キーボード

ソーテック*WinBook*コンピュータは外部キーボード用のコネクタを装着しています。ＰＳ／２用のキーボード装置を接続して使用することができます。外部キーボードを接続していても内部キーボードは同時に使用することができます。

■外部キーボードを接続する

> **警告**
> この先に進む前にコンピュータをサスペンンド・レジュームから解除し、電源を切ってください。

コンピュータの背面の右側にある、外部キーボードコネクタに外部キーボードのケーブルを差し込みます。

コンピュータの電源をオンにしたときに外部キーボードは自動的にコンピュータに認識されます。

この外部キーボードコネクタに別売りのキーボード・マウス接続アダプタを接続すると、ＰＳ／２マウスとＰＳ／２外部キーボードを同時に接続することが出来るようになります。

> **注意**
> このコネクタにＰＳ／２マウスは直接接続できません。
> ＜Ｆｎ＞によるPMメニューの呼び出し、クロック速度の切り替え、表示の反転などの機能は外部キーボードからは使用できません。

> **注意**
> 外部キーボードを使用せずＰＳ／２マウスのみを使用したい場合でも必ずキーボード・マウス接続アダプタが必要になります。
> 尚、日本ＩＢＭ社製のキーボード・マウス接続アダプタをお使いになる場合には、キーボードとマウスの表示が逆になるため、キーボードの表示側にはマウスをマウスの表示側にはキーボードを接続してください。
> （内部仕様が違うため）

外部ＣＲＴモニタ

ソーテック***WinBook***コンピュータのＬＣＤ画面表示だけでなく、あなたは外部ＶＧＡまたはマルチ周波数対応のＣＲＴを接続することにより、ＣＲＴにおいても表示を行うことができます。

ソーテック***WinBook***コンピュータに接続、表示出来るＣＲＴはＶＧＡ対応のＣＲＴおよび、ＶＧＡ対応のマルチ周波数ＣＲＴです。　ＣＲＴのタイプによりＷｉｎｄｏｗｓで表示可能なドット数が変化します。　さらに詳しい内容についてはＡＰＰＥＮＤＩＸ　Ｂのユーティリティの項目をお読みください。

■ＣＲＴモニタを接続する

警告
この先に進む前にコンピュータをサスペンド・レジュームから解除し、
電源を切ってください。

外部ＣＲＴモニタを接続するときは外部ＣＲＴモニタのケーブルをコンピュータ背面にある、外部ＣＲＴコネクタに接続してください。

システムのシステムコンフィグレーションメニューのなかのＶＧＡのＬＣＤ／ＣＲＴ設定がＣＲＴになっているか、ＢＯＴＨになっている場合はコンピュータの電源を入れることにより、自動的にＣＲＴに表示を行います。ＬＣＤ設定になっている場合はシステムコンフィグレーションメニューにてＬＣＤ又はＢＯＴＨの設定にしてください。詳しい設定の方法はチャプタ５をお読みください。またＷｉｎｄｏｗｓ上、ＭＳＤＯＳプロンプト上で一時的にＬＣＤ／ＣＲＴの表示を切り替えるためのユーティリティが用意されています。詳しくはＡＰＰＥＮＤＩＸ　Ｂのユーティリティの項目をお読みください。

ＩＣカード（ＰＣＭＣＩＡカード）

■ＰＣＭＣＩＡについて

ＰＣＭＣＩＡは携帯用パソコンなどに装着して利用するＩＣカードを各機器で共通に使用出来る様に定められたＩＣカードの規格です。この規格に準拠したメモリ、ハードディスク、モデム、ＬＡＮカードなど多くのカードが今後販売される予定になっています。ＰＣＭＣＩＡ　カードにはいくつかの厚みに応じて種類がわかれています。

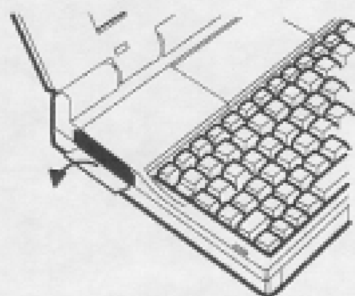
ソーテック**WinBook**コンピュータにはＰＣＭＣＩＡ　タイプ１またはタイプ２を２枚まで装着できます。　厚い、タイプ３のカードの場合は下側のスロットに一枚だけ装着できます。

ソーテック**WinBook**コンピュータにはＰＣＭＣＩＡカードを装着して、使用するためのコントローラ回路と、上記のカードを装着するためのスロット装置があります。

> 注意
> 異なる規格のＩＣカードを装着すると、物理的にシステムに損傷を与える恐れがあります。ソーテックの推奨するＰＣＭＣＩＡ準拠のカードを必ず御使用ください。

■ＰＣＭＣＩＡカードの装着

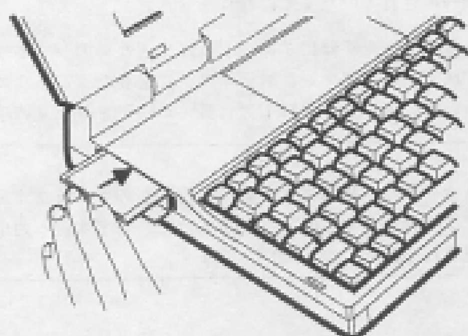
ソーテック**WinBook**コンピュータにはＰＣＭＣＩＡカードをシステムの動作中においても装着することができます。またソフトウエアドライバが自動的にそのカードを認識し、装着の直後からその目的に応じて使用することが可能です。



カードスロットカバーをあけます。

希望するスロットにＩＣカードをゆっくり挿入します。上のスロットの場合左側、下のスロットの場合右側のカードイジェクトボタンが飛び出すまで奥に押し込みます。この時のＩＣカードはイジェクトボタンと同じ程度（約１センチメール程度）外に出ます。

注意
ＩＣカードは完全に装着された状態でも、１センチメートル程外に飛び出しています。無理に押し込まないようにしてください。

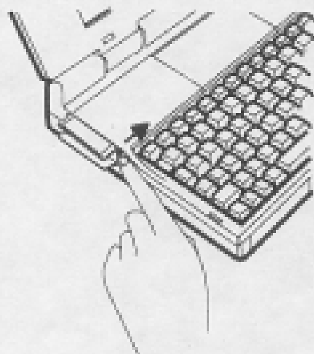


システムが動作中で、正しくカード用ドライバが組み込まれていればカードを差し込んだ時にビープ音が１回鳴りシステムがカードを認識し、動作の準備を完了したことを示します。（このビープ音はＰＭメニューにてＢＥＥＰＥＲをオフに設定していると鳴りません。）

この後は通常通りカードを使用することができます。

■ＰＣＭＣＩＡカードの取り外し

ＩＣカードを取り出すときにはそれぞれの抜きたいＩＣカードの入っているスロットのイジェクトボタンを押し込みます。ＩＣカードは１センチメートル程飛び出します。



ＩＣカードを抜き取り、保管してください。

システムが稼動中、ＩＣカードをプログラムが使用中でなければいつでもＩＣカードを抜きとることが可能です。カードを抜き取ると、システムからビープ音が２回鳴りカードがシステムから抜き去られたことを知らせます。（このビープ音はＰＭメニューにてＢＥＥＰＥＲをオフに設定していると鳴りません。）

■ソフトウエアドライバインストール

ＰＣＭＣＩＡカードを正しく御利用になるためには、正しくカードをサポートするためのプログラム群がインストールされていなくてはなりません。

ＰＣＭＣＩＡカードソフトを手軽にインストールするためのソフトウエアが準備されています。システムに添付されているリファレンスディスクに必要なソフトウエアが用意されています。詳しい使用方法についてはＡＰＰＥＮＤＩＸ　Ｂ　ユーティリティの項目をお読みください。

注意
ＰＣＭＣＩＡカードは、種類により動作しないものもあります。このため、ＰＣＭＣＩＡカードをご購入される場合は、必ず本機へ対応しているかをご確認されることをお勧めいたします。

チャプタ 7　故障かな？と思ったら

ソーテック*WinBook*コンピュータをご使用中に「故障？」と思われる症状が起きた場合、このチャプタを御確認ください。以下に１３の症状についての原因と対策を説明しますが、もしも問題が解決できない場合はお買い求めの販売店かソーテックテクニカルサポートセンタにご相談ください。

このチャプタでは

- トラブルとその対策

トラブルとその対策

■電源スイッチを入れても動かない

考えられる原因	対策
ＡＣアダプターが正しく接続されていない。	ＡＣアダプターを正しく接続してください。
バッテリーが充電されていない。	ＡＣアダプターを接続してバッテリを充電してからご使用ください。
ＡＣアダプターが故障している。	他の電気製品を同じコンセントに接続して、動くかどうか確認してください。もし正常に動けばＡＣアダプターが故障している可能性が有ります。その場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。
本体が故障している。以下、この項については削除します）	お買い求めの販売店にご相談ください。

■画面に何も表示されない、または、見にくい

考えられる原因	対策
電源が入っていない。	前記の対策と同じ確認を行ってください。
コントラスト調整ノブの未調整。（ＴＦＴカラーモデルにはありません）	コントラストボリュームを見やすい位置に調整してください。
輝度調整ノブの未調整。	バックライトボリュームを見やすい位置に調整してください。
ディスプレイの角度が悪い。	ディスプレイを見やすい角度に調整してください。
ディスプレイにムラがある。	液晶ディスプレイは、周囲の温度等の影響によって、表示が変わる特性があります。ムラが有るのは故障ではありません。
モード設定がＣＲＴで、ＣＲＴの電源がＯＮされていない。	ＣＲＴのＳＷをＯＮしてください。
ＴＦＴモデルＪ２ＳＸ／ＣＸｉの液晶画面にドット抜けがみられる。	故障ではありません。

■ＨＤＤから立ち上がらない

考えられる原因	対策
フロッピードライブにフロッピーディスクが入っている。（A> NO System Files ..）	フロッピーディスクを出して再度電源を入れ直してください。

システムディスクが挿入されていない。	システムディスクを装着してください。

■フロッピーディスクの内容が読み書きできない

考えられる原因	対策
フロッピーディスクが正しくセットされていない。	フロッピーディスクを正しくセットし直して、もう一度やり直してください。
フロッピーディスクがフォーマットされていない。	フロッピーディスクをフォーマットしてからご使用ください。
フロッピーディスクの内容が壊れている。	壊れた内容は元には戻せません。バックアップを取ってある場合は、それをご使用ください。
フロッピーディスク装置が故障している。	製品に付属しているフロッピーディスクを動かしてみて、動かない時には、お買い求めの販売店にご相談ください。
フロッピーディスクが書き込み禁止状態になっている。	ライトプロテクトノッチを書き込み可能状態にしてください。
フォーマット形式の異なるフロッピーディスクがセットされている。	正しいフロッピーディスクをセットしてください。
ドライブ指定が合っていない。	ドライブ指定を正しく設定し直してください。
フロッピーディスクのメモリー残容量が充分でない。	不用なファイルを削除するか新しいフロッピーディスクを使用してください。

■押したキーと違う文字が表示される

考えられる原因	対策
ＣＡＰＳロック，ＮＵＭロック，"カナ"キー等のセッティングが間違っている。	各キーを目的のセッティングに合わせてください。

■カーソルが動かず画面が移動する

考えられる原因	対策
ＳＣＲＬロック状態になっている。	ＳＣＲＬロック を解除してください。

■いきなり画面が消えた

考えられる原因	対策
電源コンセントまたは、ＡＣアダプタープラグが外れてしまった。	コンセントまたは、プラグを挿入してください。

サスペンドタイムアウトやデバイスタイムアウトが発生した。	レジュームまたは、システムコンフィグレーションを変更してください。

■印刷出来ない

考えられる原因	対策
プリンターの電源が入っていない。	プリンターの電源を入れてください。
接続ケーブルが外れている。	接続ケーブルを正しく接続してください。
印刷用紙が入っていない。	印刷用紙を入れてください。

■外部マウスが動作しない

考えられる原因	対策
接続ケーブルが外れているまたは、未挿入である。	接続ケーブルを正しく挿入し、もし動かない場合には、再度電源を入れ直して下さい。
電源投入後マウスを接続した。	電源を再投入してください。
専用アダプタを使用していない。（ＰＳ／２マウス時）	専用キーボード・マウス接続アダプタをお求めの上使用してください、また当アダプタには外部キーボード専用接続コネクタとＰＳ／２マウス専用接続コネクタがあります。ＰＳ／２マウスはマウス専用接続ポートに接続してください。
外部キーボードポートに直接挿入されている。（ＰＳ／２マウス時）	専用キーボード・マウス接続アダプタをお求めの上使用してください。
適正なマウスドライバを使用していない。	使用されるマウスに添付されているマウスドライバを正しくインストールしてください。

■ビープ音が鳴っている

考えられる原因	対策
バッテリー容量がなくなっている。	ＡＣアダプターを接続するかまたは、一度電源を切って別の充電済みのバッテリーを装着してください。
ＡＣアダプタープラグが外れかかっている、または外れている。	正しく接続し直してください。

■表示される日付や時刻が正しくない

考えられる原因	対策

日付や時刻設定をしていないか、間違った設定になっている。	正しい日付や時刻に設定し直してください。

■充電表示用ＬＥＤが点灯しない

考えられる原因	対策
バッテリー端子の接触不良。	バッテリーを一度取外してから、やわらかい布で端子部分を軽く拭いてください。

■サスペンド／レジュームできない

考えられる原因	対策
正しくパワーマネージメントメニューの設定を行っていない。	パワーマネージメントメニューを呼び出し正しく設定を行ってください。
バッテリー容量がなくなった。	ＡＣアダプタまたは、充電済みバッテリーに交換し再度電源を入れ直してください。

注意
ＨＤＤを修理する場合はドライブのみの修理若しくは交換となります。記憶されているアプリケーション、データ等の保証、修復はいたしかねますので重要なものについては必ずコピーをとるようお願いいたします。

チャプタ 8　こんなことをしたい

このチャプタでは

- ソーテックWinBookコンピュータをご使用になる際の代表的な操作法を説明しています。

システム全体

■スピーカから音が出ないようにしたい

- ＜Ｆｎ＞＋＜Ｅｓｃ＞を押して，ＰＭメニューを呼び出してください。
- Ｃｏｎｔｒｏｌｓサブメニューの項目で上下カーサ移動キーを押します。
- Ｂｅｅｐｅｒの項目の左側にはチェックマーク”ｒ”が表示されているはずです。
- ＜Ｅｎｔｅｒ＞を押します。
- Ｂｅｅｐｅｒの左側のチェックマーク”ｒ”は消えます。
- ＜Ｅｓｃ＞を押します。
- ＜Ｆ１０＞を押します。
- ＜Ｅｓｃ＞を押します。
- ＜Ｆｎ＞＋＜Ｅｓｃ＞を押す前の画面に戻り，完了です。

注意
バッテリ残量が少なくなった時の警告音も出なくなります。

■サスペンド・レジューム機能を使いたい

- ＜Ｆｎ＞＋＜Ｅｓｃ＞を押して，ＰＭメニューを呼び出してください。
- Ｃｏｎｔｒｏｌｓサブメニューの項目で上下カーサ移動キーを押します。
- Ｐｏｗｅｒ　Ｓｗｉｔｃｈの項目の右側に”Ｓｕｓｐｅｎｄ／Ｒｅｓｕｍｅ”と出ていれば，＜Ｅｓｃ＞を２回押して終了します。
- Ｐｏｗｅｒ　Ｓｗｉｔｃｈの項目の右側に”Ｏｎ／Ｏｆｆ”と出ているときは＜Ｅｎｔｅｒ＞を押し，”Ｓｕｓｐｅｎｄ／Ｒｅｓｕｍｅ”に変更します。
- ＜Ｅｓｃ＞を押します。
- ＜Ｆ１０＞を押します。
- ＜Ｆｎ＞＋＜Ｅｓｃ＞を押す前の画面に戻り，完了です。電源スイッチを押してサスペンドすることができるようになります。

■サスペンド・レジューム機能を使いたくない

* 前項のＰｏｗｅｒ Ｓｗｉｔｃｈの表示を”Ｏｎ／Ｏｆｆ”に設定してください。

■ＣＰＵのスピードを遅くしたい（一時的）

* ＜Ｆｎ＞＋＜Ｔ＞を押してください。ＣＰＵＬＥＤがオレンジ色に点灯すればＣＰＵの速度は一時的に遅くすることができます。もう一度＜Ｆｎ＞＋＜Ｔ＞を押せばもとの速度に戻ります。この低速モードの場合は８．２５ＭＨｚ（Ｊ２ＤＸ２／５０Ｃｉは２５ＭＨｚ、Ｊ２ＤＸ４／１００Ｃｉは５０ＭＨｚ）まで減速します。

■ＣＰＵのスピードを遅くしたい（スタート時いつも）

* ＜Ｃｔｒｌ＞＋＜Ａｌｔ＞＋＜Ｓ＞を押してシステムコンフィグレーションメニューを呼び出す。
* Ｐｒｅｆｅｒｅｎｃｅｓサブメニューの項目で上下カーサ移動キーを押します。
* Ｂｏｏｔ Ｓｐｅｅｄの項目にて”Ｓｌｏｗ Ｃｌｏｃｋ”にマークされていれば、＜Ｅｓｃ＞を２回押して終了します。
* Ｂｏｏｔ Ｓｐｅｅｄの項目にて”Ｆａｓｔ Ｃｌｏｃｋ”にマークされていれば”Ｓｌｏｗ Ｃｌｏｃｋ ”に変更します。
* ＜Ｅｓｃ＞を押します。
* ＜Ｆ１０＞を押します。

■時刻・日付を修正したい

* ＤＯＳコマンドによる方法とシステムコンフィグレーションによる修正方法があります。
* チャプタ１の”コンピュータをスタートさせる”の項目のＤＯＳプロンプトにおける日付・時刻の設定をご覧ください。
* システムコンフィグレーションによる変更方法はチャプタ５の”Ｄａｔｅ，Ｔｉｍｅ”の項目をご覧ください。

画面関連

■ＬＣＤ表示の反転をしたい

- キーボードから＜Ｆｎ＞＋＜Ｄ＞を押してください。またコンピュータのスタート時いつでも反転させておきたい時にはシステムコンフィグレーションの設定を変更します。チャプタ５のＶＧＡの項目をお読みください。なおこの設定は白黒ＬＣＤモデル（Ｊ２ＳＸ／３３、Ｊ２ＳＸ／３３Ｌ）のみ可能です。

■ＣＲＴとの同時表示をしたい

- リファレンスディスクに入っているユーティリティＳＩＭＵＬ．ＥＸＥを使用します。
- ソフトインストール版のモデルをお持ちの方はハードディスクのＶＧＡＵＴＩＬディレクトリにＳＩＭＵＬ.ＥＸＥが、すでにセットアップされています。
- ＤＯＳプロンプトで、ＳＩＭＵＬ＜Ｅｎｔｅｒ＞とタイプしてください。
- ＬＣＤとＣＲＴは同時表示になります。ただし、ＣＲＴが高解像度表示中にはこのプログラムを実行することはできません。
- またシステムコンフィグレーションの設定により、同時表示を行うようにすることも出来ます。チャプタ５のＶＧＡの項目をお読みください。

■ＣＲＴとの同時表示をしたくない

- リファレンスディスクに入っているユーティリティＬＣＤ．ＥＸＥを使用します。
- ＤＯＳプロンプトで、ＬＣＤ＜Ｅｎｔｅｒ＞とタイプします。
- またシステムコンフィグレーションの設定により、同時表示を行うようにすることも出来ます。チャプタ５のＶＧＡの項目をお読みください。

Ａｐｐｅｎｄｉｘ　Ａ　システムの仕様

モデル		Ｊ２５Ｘ／３３Ｌｉ	Ｊ２５Ｘ／３３Ｃｉ
ＣＰＵ		ＳＬエンハンスト４８６ＳＸ－３３ＭＨｚ	同左
システムＲＡＭ	標準	８ＭＢ ５Ｖタイプ	同左
	最大	２０ＭＢ（１６ＭＢＲＡＭカード５Ｖタイプ１枚追加時）	同左
ＢＩＯＳＲＯＭ		１２８ＫＢ フラッシュＲＯＭ	同左
ビデオメモリ		５１２ＫＢ １６ビット幅ローカルバス	同左
ハードディスク		２６０ＭＢ 着脱式	同左
フロッピーディスク		３．５インチ ２モード１．４４ＭＢ／７２０ＫＢ 内蔵	同左
ビデオ	ＬＣＤ	６４０ｘ４８０ドット モノクローム 最大６４階調 ０．３ｍｍピッチ ９．４インチ 冷陰極管バックライト	６４０ｘ４８０ドット ＤＳＴＮカラー２５６色 ０．３ｍｍピッチＲＧＢ一組 ９．４インチ 冷陰極管バックライト
	ＣＲＴ	最大１０２４ｘ７６８ドット１６色（インターレース） ＬＣＤと同解像度にて同時表示可能	同左
インターフェース		シリアルポート パラレルポート 外部ＣＲＴポート 外部キーボードポート ＩＣカードスロット	同左
キーボード	仕様	２．５ｍｍキーストローク メンブレン型	同左
	キー数	８４キー（１０６キーエミュレーション）	同左
マウス		１１ｍｍ径トラックボール内蔵	同左
機密保護機能		パスワード設定による保護機能	同左
パワーセーブ機能		ＣＰＵクロックダウン ビデオ表示停止 ハードディスク停止 サスペンド・レジューム機能 などをユーザにて選択可能	同左
カレンダ・時計・設定		リチウム電池によるバックアップ ５年間	同左
電源	ＡＣアダプタ	入力１００Ｖ～２４０Ｖ５０・６０ヘルツ 出力１９Ｖ１３００ｍＡ	同左
	電池	ニッケル水素充電式電池 １２Ｖ２３００ｍＡＨ	同左
寸法		２９６（Ｗ）ｘ２１６（Ｄ）ｘ４１（Ｈ） ヒンジ部分高さ４６（単位ｍｍ）	２９６（Ｗ）ｘ２１６（Ｄ）ｘ４５（Ｈ）
重量		２．３Ｋｇ	２．５Ｋｇ

モデル		Ｊ２ＳＸ／３３ＣＸｉ	Ｊ２ＤＸ２／５０Ｃｉ
ＣＰＵ		ＳＬエンハンスト４８６ＳＸ－３３ＭＨｚ	ＳＬエンハンスト４８６ＤＸ２－５０ＭＨｚ
システムＲＡＭ	標準	８ＭＢ ５Ｖタイプ	８ＭＢ ３．３Ｖタイプ
	最大	２０ＭＢ（１６ＭＢＲＡＭカード５Ｖタイプ１枚追加時）	２０ＭＢ（１６ＭＢＲＡＭカード３．３Ｖタイプ１枚追加時）
ＢＩＯＳＲＯＭ		１２８ＫＢ フラッシュＲＯＭ	同左
ビデオメモリ		５１２ＫＢ １６ビット幅ローカルバス	同左
ハードディスク		３６０ＭＢ 着脱式	２６０ＭＢ 脱着式
フロッピーディスク		３．５インチ ２モード１．４４ＭＢ／７２０ＫＢ 内蔵	３．５インチ ３モード１．４４ＭＢ／１．２ＭＢ／７２０ＫＢ 内蔵
ビデオ	ＬＣＤ	６４０ｘ４８０ドット ＴＦＴカラー２５６色 ０．３ｍｍピッチ ９．４インチ 冷陰極管バックライト	６４０ｘ４８０ドット ＤＳＴＮカラー２５６色 ０．３３ｍｍピッチＲＧＢ一組 １０．３インチ 冷陰極管バックライト
	ＣＲＴ	最大１０２４ｘ７６８ドット１６色（インターレース） ＬＣＤと同解像度にて同時表示可能	同左
インターフェース		シリアルポート パラレルポート 外部ＣＲＴポート 外部キーボードポート ＩＣカードスロット	同左
キーボード	仕様	２．５ｍｍキーストローク メンブレン型	同左
	キー数	８４キー（１０６キーエミュレーション）	同左
マウス		１１ｍｍ径トラックボール内蔵	同左
機密保護機能		パスワード設定による保護機能	同左
パワーセーブ機能		ＣＰＵクロックダウン ビデオ表示停止 ハードディスク停止 サスペンド・レジューム機能 などをユーザにて選択可能	同左
カレンダ・時計・設定		リチウム電池によるバックアップ ５年間	同左
電源	ＡＣアダプタ	入力１００Ｖ～２４０Ｖ５０・６０ヘルツ 出力１９Ｖ１３００ｍＡ	同左
	電池	ニッケル水素充電式電池 １２Ｖ２３００ｍＡＨ	同左
寸法		２９６（Ｗ）ｘ２１６（Ｄ）ｘ４５（Ｈ）	２９６（Ｗ）ｘ２１６（Ｄ）ｘ４５（Ｈ）
重量		２．６Ｋｇ	２．６Ｋｇ

モデル		J2DX4／100Ci
CPU		SLエンハンスト486DX4－100MHz
システムRAM	標準	8MB 3．3Vタイプ
	最大	20MB（16MBRAMカード3．3Vタイプ1枚追加時）
BIOSROM		128KB フラッシュROM
ビデオメモリ		512KB 16ビット幅ローカルバス
ハードディスク		340MB 脱着式
フロッピーディスク		3．5インチ 3モード1．44MB／1．2MB／720KB 内蔵
ビデオ	LCD	640x480ドット DSTNカラー256色 0．33mmピッチRGB一範 10．3インチ 冷陰極管バックライト
	CRT	最大1024x768ドット16色（インターレース） LCDと同解像度にて同時表示可能
インターフェース		シリアルポート パラレルポート 外部CRTポート 外部キーボードポート ICカードスロット
キーボード	仕様	2．5mmキーストローク メンブレン型
	キー数	84キー（106キーエミュレーション）
マウス		11mm径トラックボール内蔵
機密保護機能		パスワード設定による保護機能
パワーセーブ機能		CPUクロックダウン ビデオ表示停止 ハードディスク停止 サスペンド・レジューム機能 などをユーザにて選択可能
カレンダ・時計・設定		リチウム電池によるバックアップ 5年間
電源	ACアダプタ	入力100V～240V50－60ヘルツ 出力19V1300mA
	電池	ニッケル水素充電式電池 12V2300mAH
寸法		296（W）x216（D）x45（H）
重量		2．6Kg

Appendix B　ユーティリティとドライバソフト

添付のリファレンスディスクにはシステムをより快適に使用するためのいくつかのプログラムファイルが書き込まれています。ここではそのプログラムやドライバについての使い方を説明しています。

ディスプレイ関連

■表示切り替えプログラム

これらのユーティリティは表示モードを簡単に切り替える為のもので、ＤＯＳプロンプトもしくはＷｉｎｄｏｗｓのプログラム上で動きます。

ＤＯＳプロンプトで動かす時は次のいずれかを入力して下さい。

・ CRT [<Ｅｎｔｅｒ>]

・ PANEL [<Ｅｎｔｅｒ>]

・ SIMUL [<Ｅｎｔｅｒ>]

CRTユーティリティは表示を外部ＣＲＴに切り替えます。

Ｐａｎｅｌはその時の表示モードが６４０Ｘ４８０以下の時にLCD表示に切り替えます。

Ｓｉｍｕｌはその時の表示モードが６４０Ｘ４８０以下の時にＬＣＤと外部ＣＲＴの両方で同時表示するように切り替えます。

■Ｗｉｎｄｏｗｓディスプレイドライバのインストール

インストールバージョンにはＷｉｎｄｏｗｓディスプレイドライバが既に組み込まれていますが、新たにインストールしたい場合は下記に示す手順にてインストールしてください。

1 Ｗｉｎｄｏｗｓを立ちあげます。

2 ドライブAにリファレンスディスクをセットします。

3 プログラムマネージャ<アイコン（F）><ファイル名を指定して実行（R）>を選択します。

4 <コマンドライン（C）>のテキストボックスにA：VGAINSTとタイプします。

5 <OK>を選択すると自動的にインストールが始まります。

ＩＣカード関連

■ＣａｒｄＳｏｆｔインストール

ＩＣカードを快適に使用していただくためにカードソフトを用意しています。*WinBook*コンピュータは出荷時カードソフトがインストールされていますが、ＩＣカードを動作可能にするためにはＣＯＮＦＩＧ．ＳＹＳ内のデバイスドライバ文を変更する必要があります。

ＣＯＮＦＩＧ．ＳＹＳの内容はＭＳ－ＤＯＳのＥＤＩＴコマンド等にてご確認でき又変更することも可能です。ＥＤＩＴコマンドは￥ＤＯＳ￥のディレクトリー内にあります。ルートディレクトリから操作される場合には下記のように入力してください。

> 注意
> ＣＯＮＦＩＧ．ＳＹＳを変更する場合は、その前に必ずバックアップファイル（ＣＯＮＦＩＧ．ＯＬＤ等）をお作り下さい。カードソフトの起動時に ＷＡＲＮＩＮＧ メッセージが４行表示されますが、これは異常ではありません。そのままお使いください。

Ｃ：￥）ＣＤ￥ＤＯＳ　<Ｅｎｔｅｒ>

Ｃ：￥）ＤＯＳ￥ＥＤＩＴ <ＥＮＴＥＲ>

ＣＯＮＦＩＧ．ＳＹＳ内の文を下記のとおり変更してください。

出荷時の設定

ＤＥＶＩＣＥ＝Ｃ：￥ＤＯＳ￥ＥＭＭ３８６．ＥＸＥ

ｒｅｍ ＤＥＶＩＣＥ＝Ｃ：￥ＣＡＲＤＳＯＦＴ￥ＳＳＣＩＲＲＵＳ．ＥＸＥ

ｒｅｍ ＤＥＶＩＣＥ＝Ｃ：￥ＣＡＲＤＳＯＦＴ￥ＣＳ．ＥＸＥ

ｒｅｍ ＤＥＶＩＣＥ＝Ｃ：￥ＣＡＲＤＳＯＦＴ￥ＣＳＡＬＬＯＣ．ＥＸＥ Ｃ：￥ＣＡＲＤＳＯＦＴ￥ＣＳＡＬＬＯＣ．ＩＮＩ

ｒｅｍ ＤＥＶＩＣＥ＝Ｃ：￥ＣＡＲＤＳＯＦＴ￥ＡＴＡＤＲＶ．ＥＸＥ

ｒｅｍ ＤＥＶＩＣＥ＝Ｃ：￥ＣＡＲＤＳＯＦＴ￥ＳＲＡＭＤＲＶ．ＥＸＥ

ｒｅｍ ＤＥＶＩＣＥ＝Ｃ：￥ＣＡＲＤＳＯＦＴ￥ＣＡＲＤＩＤ．ＥＸＥ

リマークを外した後の設定

ＤＥＶＩＣＥ＝Ｃ：￥ＤＯＳ￥ＥＭＭ３８６．ＥＸＥ Ｘ＝Ｃ８００－ＣＦＦＦ

ＤＥＶＩＣＥ＝Ｃ：￥ＣＡＲＤＳＯＦＴ￥ＳＳＣＩＲＲＵＳ．ＥＸＥ

ＤＥＶＩＣＥ＝Ｃ：￥ＣＡＲＤＳＯＦＴ￥ＣＳ．ＥＸＥ

ＤＥＶＩＣＥ＝Ｃ：￥ＣＡＲＤＳＯＦＴ￥ＣＳＡＬＬＯＣ．ＥＸＥ Ｃ：￥ＣＡＲＤＳＯＦＴ￥ＣＳＡＬＬＯＣ．ＩＮＩ

ＤＥＶＩＣＥ＝Ｃ：￥ＣＡＲＤＳＯＦＴ￥ＡＴＡＤＲＶ．ＥＸＥ

ＤＥＶＩＣＥ＝Ｃ：￥ＣＡＲＤＳＯＦＴ￥ＳＲＡＭＤＲＶ．ＥＸＥ

ＤＥＶＩＣＥ＝Ｃ：￥ＣＡＲＤＳＯＦＴ￥ＣＡＲＤＩＤ．ＥＸＥ

又、新たにデバイスドライバをインストールしたい場合はリファレンスディスクをご活用下さい。詳しいインストールの方法、使い方についてはリファレンスディスクのＲＥＡＤＭＥ．ＴＸＴをＥＤＩＴコマンド等を使ってご覧願います。

パワーセーブ関連

■POWER．EXE

POWER．EXEはコンピュータの性能を落とさずに消費電力を低下させるために取り決められた規格です。ソーテック*WinBook*コンピュータはPOWER．EXEをサポートしています。既に組み込まれていますが、MS－DOSの別売品をお使いになる場合にも必ずPOWER．EXEをCONFIG．SYSに組み込むことをお奨めいたします。

- MS－DOSをインストールしてください。
- CONFIG．SYSファイルの中に以下の一行を加えます。"DOS¥"と書いてあるのはPOWER．EXEをコピーしたサブディレクトリパスを指定するためのものです。コピーしたパスをここで指定してください。

  DEVICE=C：¥DOS¥POWER．EXE

- <Ctrl>+<Alt>+<Del>を押して、MS－DOSの再読み込みを行い、この組み込みを有効にします。

■APM

APM（アドバンスト パワー マネージメント）はコンピュータの性能を落とさずに消費電力を低下させるために取り決められた規格です。ソーテック*WinBook*コンピュータはAPMをサポートしています。Windowsをインストールされる場合には"カスタムセットアップでインストールする"を選択し、システム情報の"コンピュータ："の項目が"MS－DOS with APM"になるように選択してください。単なる"MS－DOS"設定より、アイドル時の大幅な消費電力の低下を実現することができます。なお、ソーテック*WinBook*コンピュータはすでにWindowsは"MS－DOS with APM"に設定されています。

■PMEXT．SYS

このプログラムはソーテック*WinBook*コンピュータをご使用中にサスペンドレジュームを行った時に発生する時刻のずれを修正するための専用デバイスドライバです。

ソーテック*WinBook*コンピュータはシステムには既に組み込まれていますが、既にMS－DOSをお持ちの場合はインストールを行った後に、このデバイスドライバを以下のように組み込んでください。

- MS－DOSをインストールしてください。
- リファレンスディスクをフロッピーディスクに装着し、PMEXT．SYSファイルをハードディスクにコピーしてください。

- ＣＯＮＦＩＧ．ＳＹＳファイルの中に以下の一行を加えます。”ＰＡＴＨ￥”と書いてあるのはＰＭＥＸＴ．ＳＹＳをコピーしたサブディレクトリパスを指定するためのものです。コピーしたパスをここで指定してください。

ＤＥＶＩＣＥ＝Ｃ：￥ＰＡＴＨ￥ＰＭＥＸＴ．ＳＹＳ

- ＜Ｃｔｒｌ＞＋＜Ａｌｔ＞＋＜Ｄｅｌ＞を押して、ＭＳ－ＤＯＳの再読み込みを行い、この組み込みを有効にします。

Ａｐｐｅｎｄｉｘ Ｃ　システムメモリマップ

ＦＦＦＦＦＦＦＦＨ ＦＦＥ００００００Ｈ	ＲＯＭイメージ及びシステムＢＩＯＳ・ＰＭプログラム領域	
ＦＦＤＦＦＦＦＦＨ ０１６０００００Ｈ	予約領域	
０１５ＦＦＦＦＦＨ ００Ｃ０００００Ｈ	予約領域	１６ＭＢ拡張ＲＡＭモジュール
００ＢＦＦＦＦＦＨ ００８０００００Ｈ	４ＭＢ拡張ＲＡＭモジュール	
００７ＦＦＦＦＦＨ ００３０００００Ｈ	４ＭＢ拡張ＲＡＭモジュール	
００２ＦＦＦＦＦＨ ００１０００００Ｈ	標準組み込み ＲＡＭ	
０００ＦＦＦＦＦＨ ０００Ｆ８０００Ｈ	システムＢＩＯＳ	
０００Ｆ７ＦＦＦＨ ０００Ｆ００００Ｈ	ＰＭプログラム領域	
０００ＥＦＦＦＦＨ ０００Ｅ８０００Ｈ	ＰＭプログラムデータ領域	
０００Ｅ７ＦＦＦＨ ０００Ｅ００００Ｈ	ＶＧＡ ＢＩＯＳ ＲＯＭイメージ	
０００ＤＦＦＦＦＨ ０００Ｃ８０００Ｈ	予約エリア	
０００Ｃ７ＦＦＦＨ ０００Ｃ００００Ｈ	ＶＧＡ ＢＩＯＳ	
００００ＢＦＦＦＦＨ ００００Ａ００００Ｈ	ＶＧＡディスプレイメモリ	
００００９ＦＦＦＦＨ ０００００００００Ｈ	メインメモリ ６４０Ｋバイト	

Ａｐｐｅｎｄｉｘ Ｄ　システムＩ／Ｏマップ

０３Ｆ８Ｈ～０３ＦＦＨ	ＣＯＭ１シリアルポート（シリアルポート）
０３Ｆ０Ｈ～０３Ｆ７Ｈ	フロッピーディスクコントローラ
０３Ｅ２Ｈ～０３ＥＦＨ	予約領域
０３Ｅ０Ｈ～０３Ｅ１Ｈ	ＩＣカードコントローラ
０３Ｃ０Ｈ～０３ＤＦＨ	ディスプレイコントローラ
０３Ｂ０Ｈ～０３ＢＦＨ	ＬＰＴ３プリンタポート
０３８０Ｈ～０３ＡＦＨ	予約領域
０３７０Ｈ～０３７ＦＨ	ＬＰＴ１プリンタポート（プリンタポート）
０３００Ｈ～０３６ＦＨ	予約領域
０２Ｆ０Ｈ～０２ＦＦＨ	ＣＯＭ２シリアルポート（ＭＴＢ）
０２８０Ｈ～０２ＥＦＨ	予約領域
０２７０Ｈ～０２７ＦＨ	ＬＰＴ２プリンタポート
０２００Ｈ～０２６ＦＨ	予約領域
０１Ｆ０Ｈ～０１ＦＦＨ	ハードディスク
０１００Ｈ～０１ＥＦＨ	予約領域
００Ｆ０Ｈ～００ＦＦＨ	数値演算プロセッサ用予約領域
００Ｅ０Ｈ～００ＥＦＨ	予約領域
００Ｃ０Ｈ～００ＤＦＨ	ＤＭＡコントローラ２
００Ａ０Ｈ～００ＢＦＨ	割り込みコントローラ２
００８０Ｈ～００９ＦＨ	ＤＭＡページレジスタ
００７０Ｈ～００７ＦＨ	リアルタイムクロック・カレンダ・その他
００６０Ｈ～００６ＦＨ	キーボードコントローラ
００５０Ｈ～００５３Ｈ	予約領域
００４０Ｈ～００４ＦＨ	タイマーコントローラ
００３０Ｈ～００３ＦＨ	予約領域
００２０Ｈ～００２ＦＨ	割り込みコントローラ１
００１０Ｈ～００１ＦＨ	予約領域
００００Ｈ～０００ＦＨ	ＤＭＡコントローラ１

() 内はデフォルト設定の割り当てを示します。

索引

かな

あ

い

う

え

お

か

き

く

こ

さ

し

す

せ

そ

索 引

た

て

と

に

は

ひ

ふ

ほ

ま

み

め

も

ゆ

り

れ

ろ

英字

索引

索 引

SOTEC